

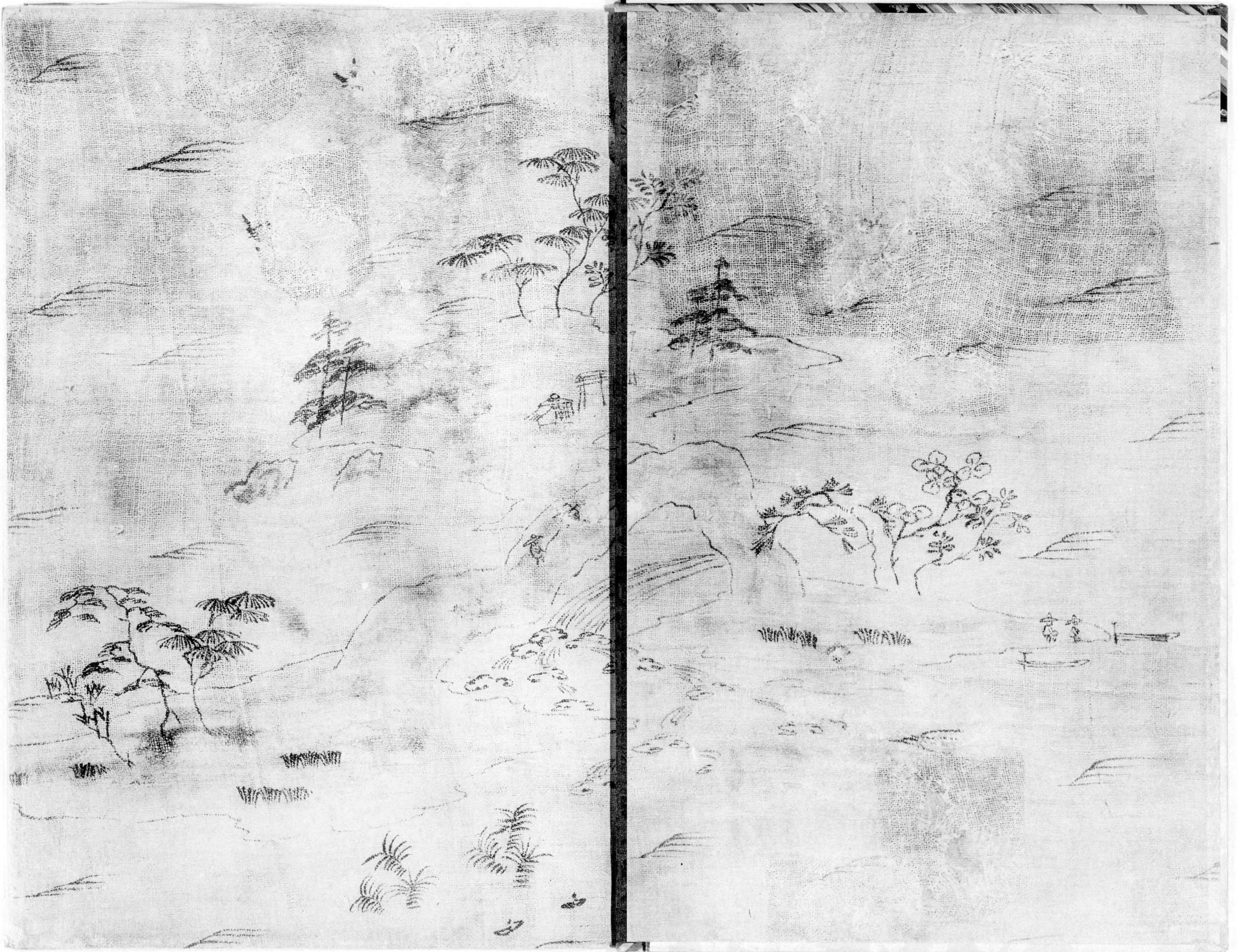
E709.2
Ko-44
(120)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

正倉院御物畵錄 十二

始





E708
K496
7642
Kc 49
(12)



正倉院御物圖錄 第十二輯

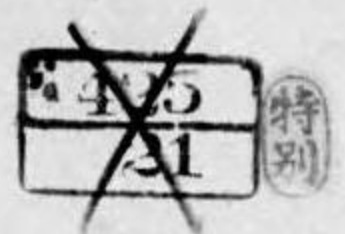
南倉納物

目次

第十七圖	第十六圖	第十五圖	第十四圖	第十三圖	第十二圖	第十一圖	第十圖	第九圖	第八圖	第七圖	第六圖	第五圖	第四圖	第三圖	第二圖	第一圖
同	同	同	同	同	同	同	銀	同	同	同	同	同	同	同	同	銀

上 (銘文) 上 (部分) 上 (部分) 上 (壺と臺) 上 上 上 上 壺 一双ノ乙 上 (臺部分) 上 (銘文) 上 (部分) 上 (部分) 上 (臺と壺) 上 上 上 上 壺 一双ノ甲





第十八圖 銀 壺 一雙ノ乙 (臺部分)
 第十九圖 銀 鉢 四口ノ一
 第二十圖 同 上 (銘文)
 第二十一圖 漆 鉢 六口ノ内
 第二十二圖 金 銀 花 盤 (色刷)
 第二十三圖 同 上
 第二十四圖 同 上 (部分)
 第二十五圖 同 上 (銘文)
 第二十六圖 八 角 銀 盤 三枚ノ一
 第二十七圖 同 上 三枚ノ二・三
 第二十八圖 長 八 角 銀 盤
 第二十九圖 同 上
 第三十圖 六 角 金 銅 盤
 第三十一圖 十二 角 金 銅 小 盤
 第三十二圖 漆 彩 繪 花 形 盤 廿九枚ノ内
 第三十三圖 同 上
 第三十四圖 同 上
 第三十五圖 同 上 (部分)
 第三十六圖 刻彫梧桐金銀繪長花形合子 二合ノ一
 第三十七圖 同 上
 第三十八圖 同 上 二合ノ二
 第三十九圖 刻彫梧桐金銀繪長花形合子

第四十圖 刻彫梧桐金銀繪長花形合子
 第四十一圖 金 銅 花 形 合 子 二合ノ一
 第四十二圖 同 上
 第四十三圖 同 上 二合ノ二
 第四十四圖 金 銅 八 曲 長 坏 三口ノ内
 第四十五圖 朴 木 彩 繪 高 坏
 第四十六圖 金 銅 大 合 子 四合ノ一
 第四十七圖 同 上
 第四十八圖 赤 銅 合 子
 第四十九圖 佐 波 利 合 子
 第五十圖 黃 銅 合 子
 第五十一圖 金 銅 合 子
 第五十二圖 赤 銅 合 子 二合ノ一
 第五十三圖 同 上 二合ノ二
 第五十四圖 銀 合 子 二合
 第五十五圖 佐 波 理 碗
 第五十六圖 金 銅 六 花 形 坏
 第五十七圖 金 銅 六 花 形 坏 (擴大)
 第五十八圖 淺 型 花 坏
 第五十九圖 同 上 (底部)
 第六十圖 同 上 (部分)
 第六十一圖 深 形 花 坏 二口

第五十五圖	花筒底裏墨書銘	宮二枚ノ一
第五十六圖	雜玉花	上二枚ノ二
第五十七圖	同	
第五十八圖	珠玉莊琥碧	數第一號
第五十九圖	琥碧	數第二・三・四・五號
第六十圖	同	上第六・七・八・九號
第六十一圖	同	上第十・十一・十二・十三號
第六十二圖	雜玉	數第十四號
第六十三圖	水精	數第十五・十六號
第六十四圖	水精	數第十七・十八・十九號
第六十五圖	菩提子	數第廿・廿一・廿二・廿三號
第六十六圖	琥碧	數第廿四號
第六十七圖	蓮子	數第廿五號
第六十八圖	柳皮箱	缺
第六十九圖	漆皮箱	缺
第七十圖	龜甲形漆皮箱	十口ノ内
第七十一圖	漆花形	箱
第七十二圖	柳漆	箱
第七十三圖	赤漆	箱

現に灰色を呈するが、銀製で、壺内
面と底裏とには、龍鱗目残り、其の總
製でなく鑄製の掬物なるを知る。形は
所謂銀鉢の口を窄ほめ底を幾分平にし
た形に作り、これに鐵鉢の場合と同様
鉢支形の臺を附す。而してその臺並に
臺の表面には魚々子地に山岳・花卉・
人物・鳥獸等の諸種の文様を現はし、
刻鏤の精妙なる御物中の随一と稱する
も過言でない。

口徑四二・五釐 胴徑六・九釐
高 四三・〇釐 總高四九・三五釐(蓋甚)
口邊厚〇・四五釐 蓋重三七・〇斤

第一圖 銀壺一雙ノ甲 (續八分ノ三)

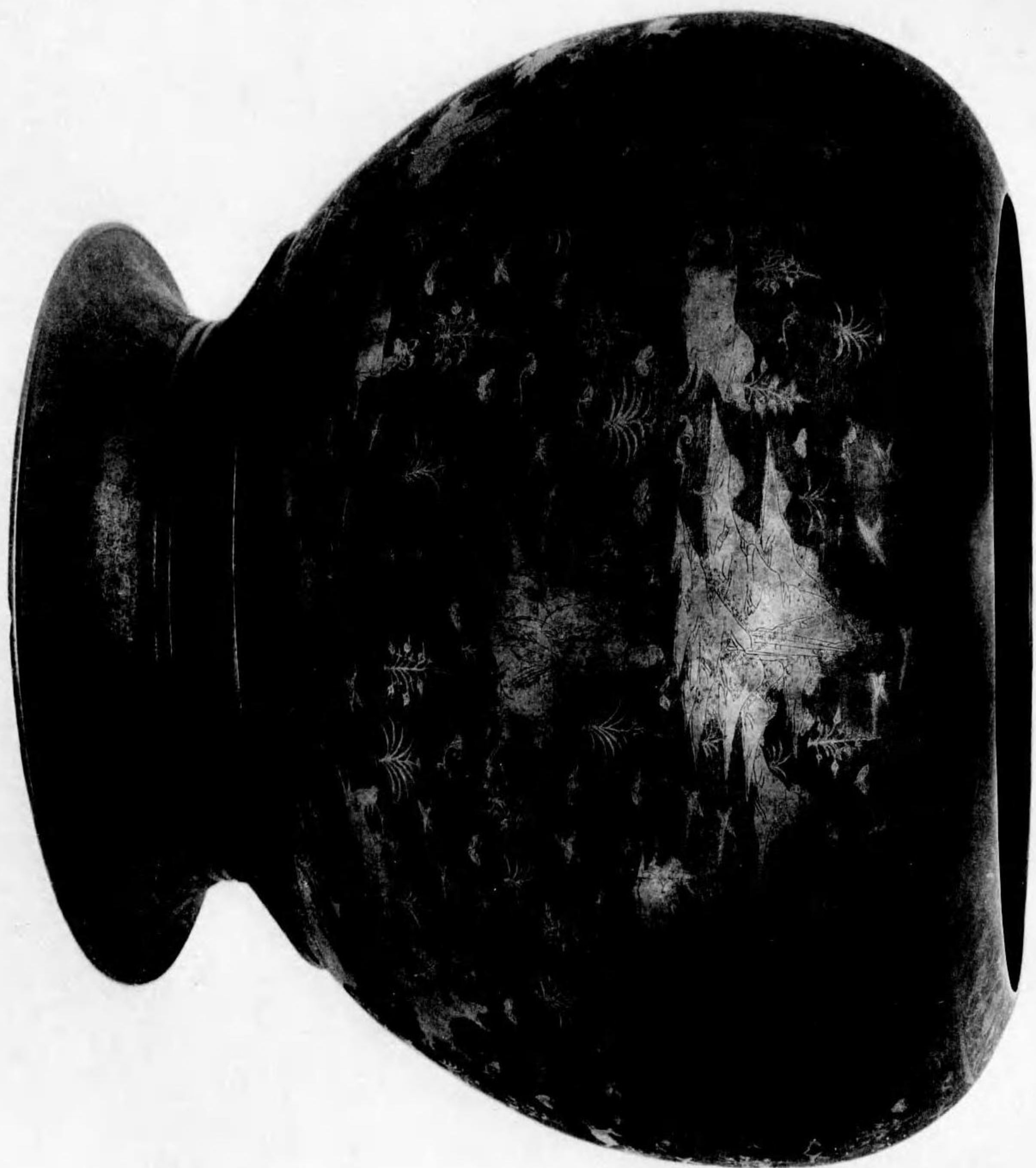


Table with multiple columns of text, likely a list or index. The text is very faint and difficult to read, but appears to be organized in a structured format.

前掲第一圖の位置より九十度左に廻
轉して撮す。壺面向つて右上の人物は
第一圖左上の騎馬像と同じである。光
線の關係上稍圖文の明瞭を缺くが、壺
の口縁と腰部とは各幅五二種の帯を
劃して廻旋する菊唐草文を圖案し、
其の帯と帯との間の壺胴側面には、四
方に四岳を配し帝龍曠野に於ける騎馬
人物の狩獵の狀をうつす。山岳走獸人
物等の自由畫的な表現と飛雲鳥蝶花卉
の圖案のなると相交つて正に圖案と繪
畫との中間を行く。

(繪壺八分三)

第二圖 銀壺一雙ノ甲

第三圖 銀壺一雙ノ甲

(繪者不明)

第二圖のところから更に九十
度廻轉して撮す。圖版向つて右
上の騎馬像は第二圖左上の牡鹿
を射る人物である。山岳の表現
は法隆寺金堂の欄間繪並に繪因
果經のそれらと相通するところ
が多い。



此器之
其形制與
其裝飾與
其紋樣與
其色彩與
其風格與
其時代與
其地點與
其用途與
其價值與

三國志 卷之三

第三圖より更に左に九十度廻
轉して示す。畫面の變化は走馬
燈に對するやうである。向つて
右端の騎馬人物は第三圖左端の
それ、又向つて左端の騎馬像は
第一圖右端の狩獵人物と同じで
あつて、銀壺周圍の文様は是で
その全部を示した事になる。

（銀八分三）

第四圖 銀壺一雙ノ甲



此器為商代晚期之青銅器，其形制與
西周初年之青銅器極為相似。其表面
飾有雲雷紋，此種紋飾在商周青銅器
中極為常見。此器之發現，對於研究
商周青銅器之發展與流變，具有極高
之價值。其出土地點為河南濬縣，現
藏於中國歷史博物館。

中國歷史博物館
一九八〇年

第五圖 銀壺一雙ノ甲

(縮寫八分ノ三)

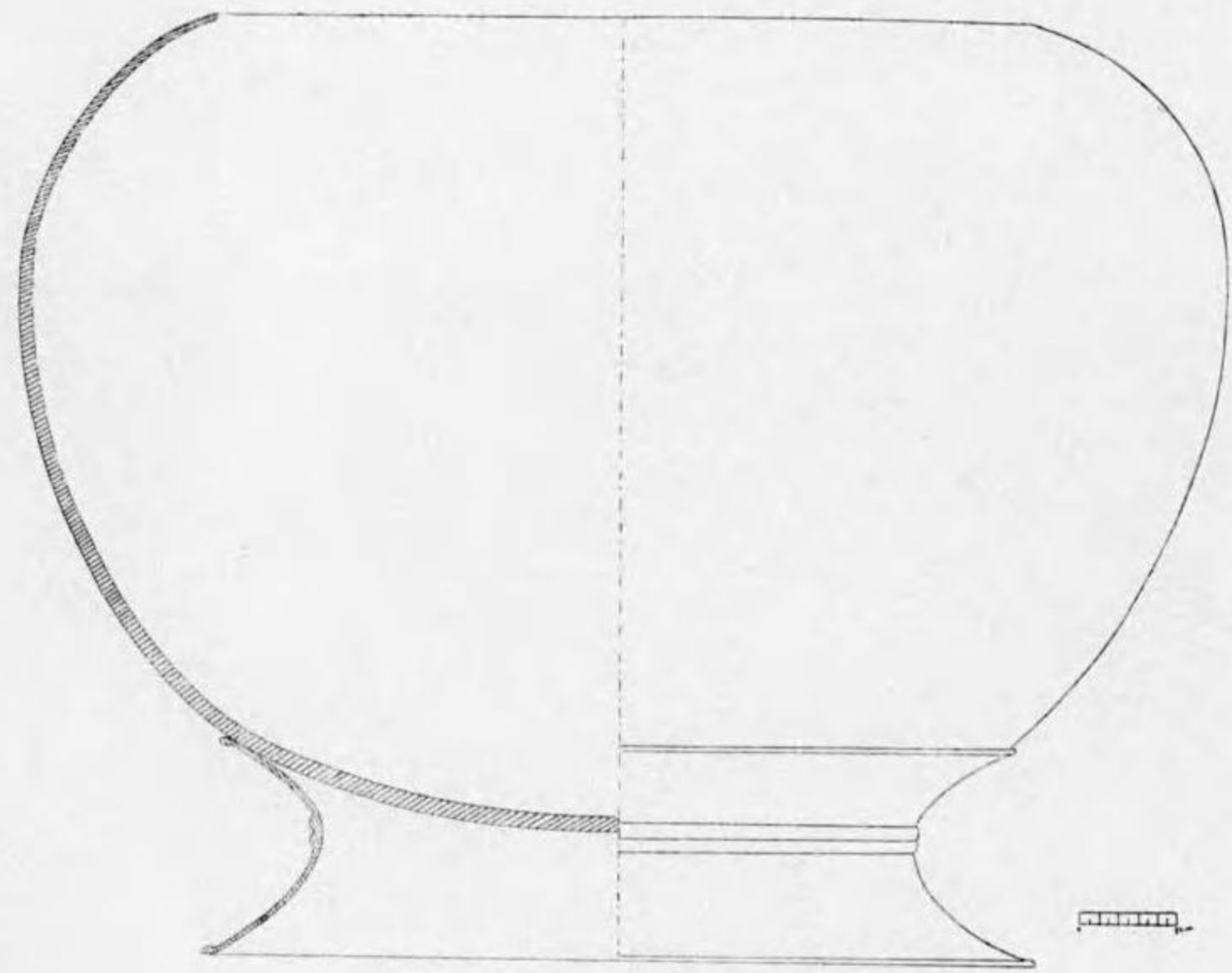
〔臺〕上徑四一〇 極底徑四三〇 極

高 一二三 重量 八〇 匁

壺と臺とを遊離させて撮す。

壺腰帯の葡萄唐草文は四區一連の基本形を反覆鏤刻し、其の下部の素文の部分は恰も臺のうけに隠れる様を作る。

臺も亦銀製で腰に二條の鎖状を繞らし、魚々子地に奔馬人物騎馬狩獲走獅子虎花卉鳥蝶をあらはす等、其の技法は全く銀壺に同じである。



一ノ分五 圖 壺 實 甲 壺 銀

第六圖 銀壺一双ノ甲 (部分) (原寸大)

銀壺面の線刻を原寸大にて示す。騎馬狩獵の人物や逃走する獸形は圖案と云ふよりは繪畫的自由さがある。就中、野猪羊の寫生的なるは騎馬人物の輪鏡使用の事と共に注目に値する。

第七圖 銀壺 一双ノ甲〔部分〕

(原寸大)

上圖の獸形は牝鹿、下圖は兎と牛(體は牛に似るが尾は鹿に近い)であらう。騎馬人物像の服飾は風俗史家の好參考資料である。

第八圖 銀壺一雙ノ甲 [銘文] (原寸大)

銀壺底裏の刻文を原寸大に示す。文に云、

「東大寺銀壺 重大五十五斤 甲

蓋實並臺惣重大七十四斤十二兩

天平神護三年二月四日」

天平神護三年二月四日は續日本紀によれば孝謙天皇東大寺行幸の日に當り、以つて本器は其の行幸に關係の納物たるを知る。而して、今は無いが本器にはもと重大七斤十二兩の蓋を具してゐた事をも、此の銘文から察せられる。重大一斤は大十六兩で、大一兩は今の約十一五匁に當ると云ふ。

第九圖 銀壺一雙ノ甲 [臺部分] (原寸大)

上二圖は銀壺臺表面の鏤刻文様、下圖は其裏面の刻文を示す。有翼馬形の靈獸としては法隆寺獻納御物龍首水瓶の鏤刻が名高いが、これは其れに次ぐものであり、獅子を御する人物は他には白綾褥の文様に見るのみで其の類例は甚だ少い。尙刻文は「東大寺 銀壺臺 重大十二斤 甲」と讀まれる。



Figure 1. A curved metal band with a floral and foliate design. The design is symmetrical and features a central floral motif with swirling patterns and leaf-like elements extending outwards. The band is dark and appears to be made of metal.

Figure 2. A curved metal band with a floral and foliate design, similar to Figure 1 but with a different arrangement of motifs. The design is symmetrical and features a central floral motif with swirling patterns and leaf-like elements extending outwards. The band is dark and appears to be made of metal.

Figure 3. A curved metal band with a different design, possibly featuring a central floral motif and a figure or animal on the right side. The design is more complex and includes what appears to be a small figure or animal on the right side. The band is dark and appears to be made of metal.

第十圖 銀壺一雙ノ乙

(縮尺分三)

口徑 四二九種 胴徑 六二三種
高 四〇九種 總高 四六六種(臺共)
口邊厚 〇四五種 臺重 三五二種

数字的には甲に比べて幾分小さいが、實物を見
た眼には兩者殆んど變りなく、其の色・形・製
作も全く同じと云つてよい。只其の圖文に於い
て

一、帯の菊菊唐草文の方向が甲乙互に反對で
ある事。

二、四方の山岳の形が甲はひらがりをもち
が、乙は小さく纏つてゐること。

三、壺の口縁並に臺の腰線をかざる鎖形の方
向が甲乙互に反對であること。

等僅少の差異がある。蓋も奈良朝遺物には兩者
對をなす場合と雖も同一に作る事は少く、大同
の中にも小異をなすを常とするを思へば、この相
異の如きも作者の特に意を用ひてなしたものと
思はれる。



Figure 1. A black and white photograph of a dark, rounded ceramic vessel with a short neck and a flared rim. The surface is decorated with intricate, light-colored floral or scrollwork patterns. The vessel is shown from a three-quarter perspective, highlighting its bulbous body and the detailed craftsmanship of the decorations.

Figure 1. A black and white photograph of a dark, rounded ceramic vessel with a short neck and a flared rim. The surface is decorated with intricate, light-colored floral or scrollwork patterns. The vessel is shown from a three-quarter perspective, highlighting its bulbous body and the detailed craftsmanship of the decorations.

第十一圖 銀壺一雙ノ乙

繪尺分三

第十圖の位置より左に九十度
細轉せしめたところを出す。圖
版向つて右端の壺面に淡く見え
る騎馬人物・花卉・鳥・蝶・山岳・飛雲等
は、それ／＼第十圖の壺面左端
に見えるものである。



Figure 1. A dark, rounded ceramic vessel with a wide, flared rim. The surface is covered in intricate, light-colored patterns, possibly floral or geometric designs, which are somewhat faded and worn.

Figure 1. A dark, rounded ceramic vessel with a wide, flared rim. The surface is covered in intricate, light-colored patterns, possibly floral or geometric designs, which are somewhat faded and worn.

前掲の位置より更に九十度廻
轉して撮す。蓋面向つて右端下
の疾驅する騎馬人物は、前十一
圖左下の猪を射る騎馬像に相當
する。中央の馬の手綱を締め乍
ら反り身になつて鹿を追ふ表現
は特に面白い。

第十二圖 銀壺一雙ノ乙

高さ八分ノ三



この花瓶は、
大正時代の
名工の作
である。其の
文様は、
雲、花、鳥、
虫、など、
自然の景物
を題材とし、
巧みに描き
出されている。
また、口縁
には、
幾何学的な
文様が施さ
れている。こ
の花瓶は、
日本の工芸
の発展を
示す重要な
資料である。

大正時代の花瓶

十二圖のところより更に九十
度左に廻して寫す。壺面向つて
右端下方に馬に騎り左手を伸す
人物は第十二圖左下の人物であ
り、又向つて左上の牝鹿を射る
騎馬人物は第十圖右上の騎馬像
に當り、これで銀壺周圍の文様
を一回轉した事になる。

(續々分三)

第十三圖 銀壺一雙ノ乙



子一與...
 引...
 佛...
 子...
 人...
 有...
 佛...
 其...

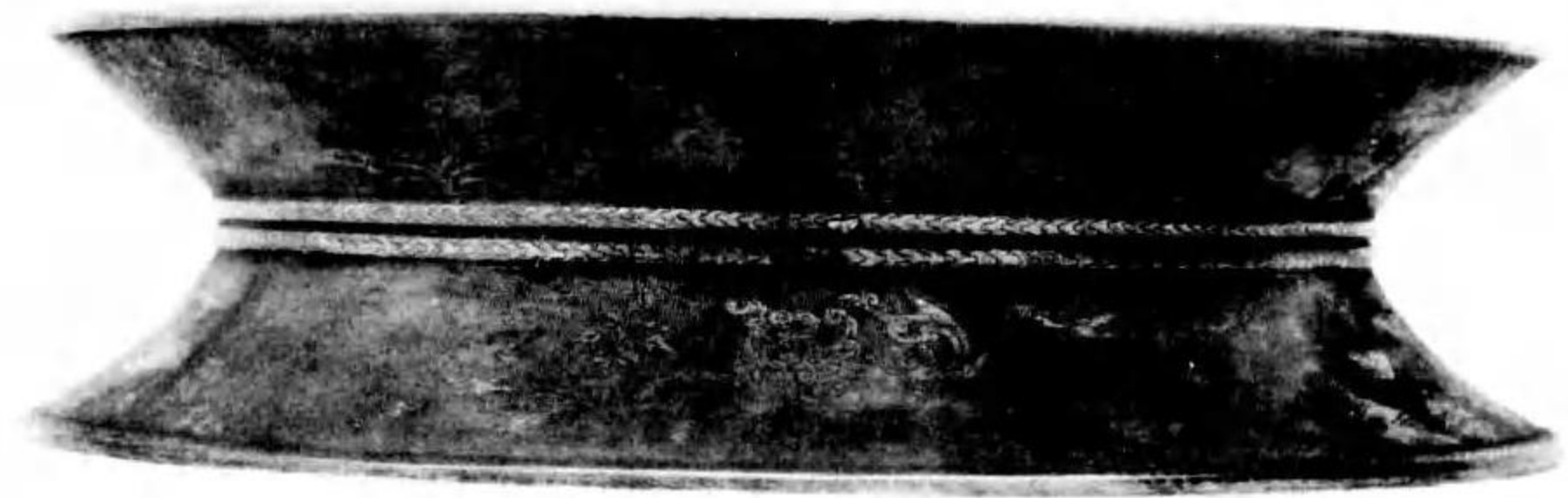
佛十... 佛... 佛...

第十四圖 銀壺 一 双ノ乙

(縮寫八分ノ三)

〔臺〕 上徑 三九七種 底徑 四一〇種
高 一〇八種 重量 七二斤

壺と臺とを遊離せしめて示す。壺の腰帯の唐草文は銀壺甲のそれ(第五圖)に比べて、圖文の顛倒せるのみならず構成にも多少の差異が見られ、又臺の文様も大同の中に小異を作る。



Faint, illegible text or markings on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

第十五圖 銀壺一雙ノ乙 [部分]

(原サタ)

銀壺甲のそれと全く同工異曲である。技法だけでなく構圖筆致までも彼をひき寫したかに見えるところがある。即ち上圖の牛(又は鹿)は第七圖下の牛に、下圖の騎馬人物並に牝鹿は第六圖上の人物並に第七圖上の鹿に酷似する。然し仔細に兩者を比較するに、其れが敷寫されなく臨模されてゐる事は注目に足る。



第十卷 中国书画艺术史

中国书画艺术史
第十卷
中国书画艺术史
第十卷
中国书画艺术史
第十卷
中国书画艺术史
第十卷

第十六圖 銀壺 一 双ノ乙 [部分] (原寸)

上圖の騎馬人物並に兎は第七圖下の騎馬像並に兎の構圖に似、下圖の人物は六圖下の騎馬人物を裏返したものに相近い。



THE
MOUNTAIN
HUNTERS

第十七圖 銀壺 一双ノ乙 [部分] (原寸大)

銀壺乙の底裏を撮す。重圈は轆轤挽きの痕、刻文は

「東大寺銀壺 重大五十二斤

蓋實並臺惣重大七十斤十二兩

天平神護三年二月四日」

と讀まれ、字配り書體は甲銀壺の其れに比して、より整つてゐるが、「東」「蓋」「實」等の缺劃の多いのはどうした故であらう。此銘記によつて本器にも重大八斤四兩の共蓋のあつた事を知る。



東大寺銀壹

重六兩二

益莫示曼德重六兩二

六月十四日

第十八圖 銀壺 一双ノ乙 (臺部分) (原寸大)

全形は第十四圖下に出す。本圖は其の部分を示し上二圖は表面の鑲刻、下圖は裏面の刻文である。上圖の翼馬は前第九圖のそれに似てやゝ異り、中圖は豹を狩する圖とすべきであらう。底裡刻文は

「東大寺 銀壺臺 重十斤八兩 乙」

とあり、其の書體字配りは銀壺臺甲のそれ(第九圖)と甚だ似るが、彼の右廻りに書かれてゐるに對し之が左廻りに記されてゐるのは興味がある。



THE QILIN, THE TIGER, AND THE HUNTER

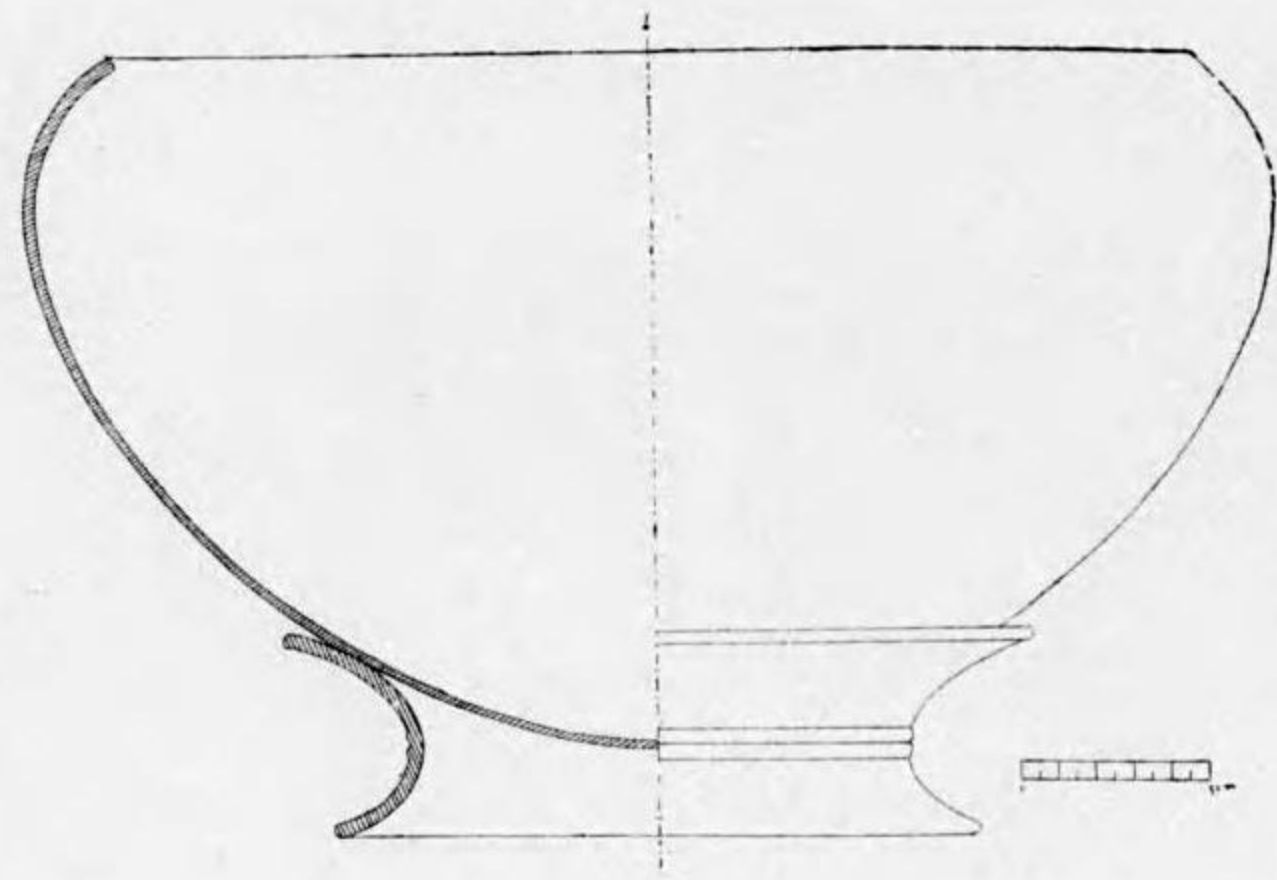
The Qilin is a mythical creature, often depicted as a horse with a dragon's head and a single horn. It is considered a good omen and is said to appear only once every 100 years. The tiger is a symbol of power and courage, and the hunter represents the human element in the scene. The combination of these elements is a common motif in Chinese art, symbolizing the harmony between the natural world and the human realm.

第十九圖 銀鉢 四口ノ一 (縮寫三分ノ二)

〔鉢〕 口径二八八糎 腹徑三三四糎
 高 一八八糎 重 三四八五瓦
 〔臺〕 上徑一七一糎 底徑一九八糎
 高 五五糎 重 一〇〇〇瓦

鉢と臺との二部よりなり、鉢は所謂鐵鉢形、臺は鉢支形をなし、共に純銀の鑄製らしく其の内外には襷目跡に残る。且鉢・臺それぞれに銘記を存し、鉢には其の肩に「重大五斤四兩」の刻文、臺には其の底裡に「重大一斤七兩」の刻文と「南鏡」の墨書とがある。南鏡の墨書は後世のものと思はれるが刻文は何れも製作當初のもので、奈良時代の度量衡研究の好資料と云へる。下圖は臺の底裡を示す。尙御府中には同形同質のものが外に三口あり、それ、次の如き刻銘がある。

四口ノ二 重大五斤六兩 (鉢)
 重大一斤八兩 (臺)
 四口ノ三 重大五斤一兩 (鉢)
 重大一斤八兩 (臺)
 四口ノ四 重大四斤七兩 (鉢)
 重大一斤八兩 (臺)



銀鉢實測圖 三分ノ一

第二十圖 銀

鉢

(縮寫三分二)

口徑 二八九糎 腹徑 三三九糎
高 一八五糎 重量 三三八五克

形は前掲銀鉢に大體似てゐるが、彼の鑄製轆轤挽きなると異り、これは槌製である。其の口縁にあたつて

「重大五斤五兩延喜十四年十二月十一日別當大法師智
愷住時作入」

の刻文があり、それが延喜年間の製作に係る事を知る。
大法師智愷は延喜十二年東大寺別當に任じ在職八年であつたと云ふ。臺を失し現在のは後補である。下圖は銘文を原寸大に示す。



第五十四号

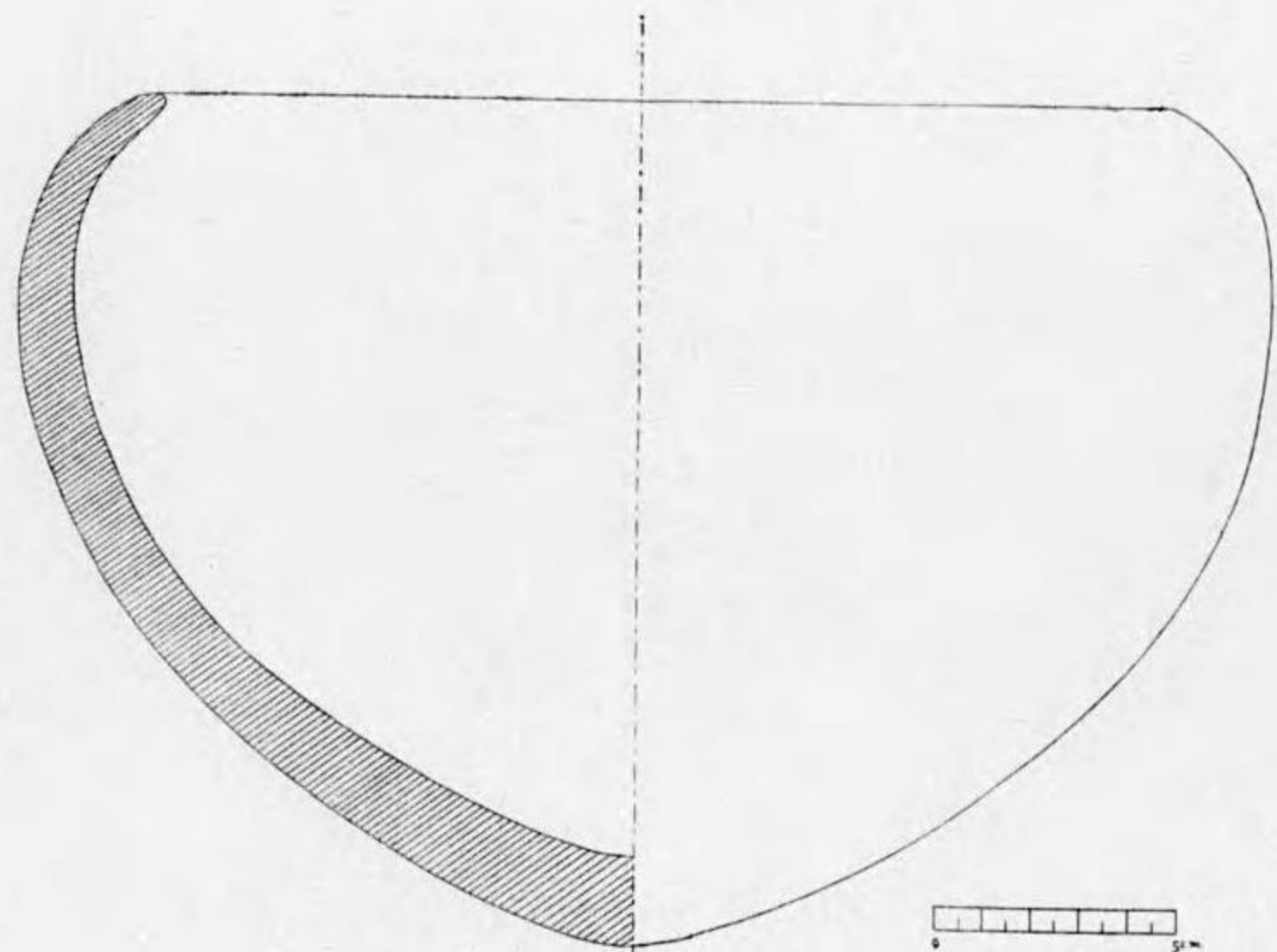
此器为战国时期之铜尊，其形制与《礼记·礼运》所载之“土尊”相类。器身刻有铭文，内容为“大德当别，大德当别，大德当别”。此器现藏于上海博物馆。

第二十一圖 漆鉢六口ノ内

(縮寫八分ノ七)

- 第一號(上) 口徑二一五種
 肩徑二四五種
 高 一六二種
- 第二號(下) 口徑二〇六種
 肩徑二四九種
 高 一六三種

共に檜材を用ひ、轆轤挽きにて
 木地を作り、これに麻布を張り黒
 漆塗りしたもので、其の姿は所謂
 鐵鉢形をなす。蓋し鐵鉢の代用品
 とも云ふべきか。鉢の内外素文で
 あるが第二號の外底部には「大」
 「大八」等の針書が見える。
 尙残りの四口も殆んど同形と云
 つてよく、且つその何れにも臺を
 具せない。



一分二 圖 測 實 鉢 漆

銀板製の打物で、盤は六花形
 をなし、中央に鹿、周に花文を
 それ／＼繼起にて現はし、之に
 銀製花足形の三脚を附し、縁に
 環珞を飾る。脚は後補であるが、
 盤面繼起の文様には皆鍍金を施
 し、環珞には黄緑藍褐黒白等の
 珠玉を貫き純金垂飾を附し、最
 も莊嚴に努む。

徑六・五寸 高三・三寸 重四・五斤

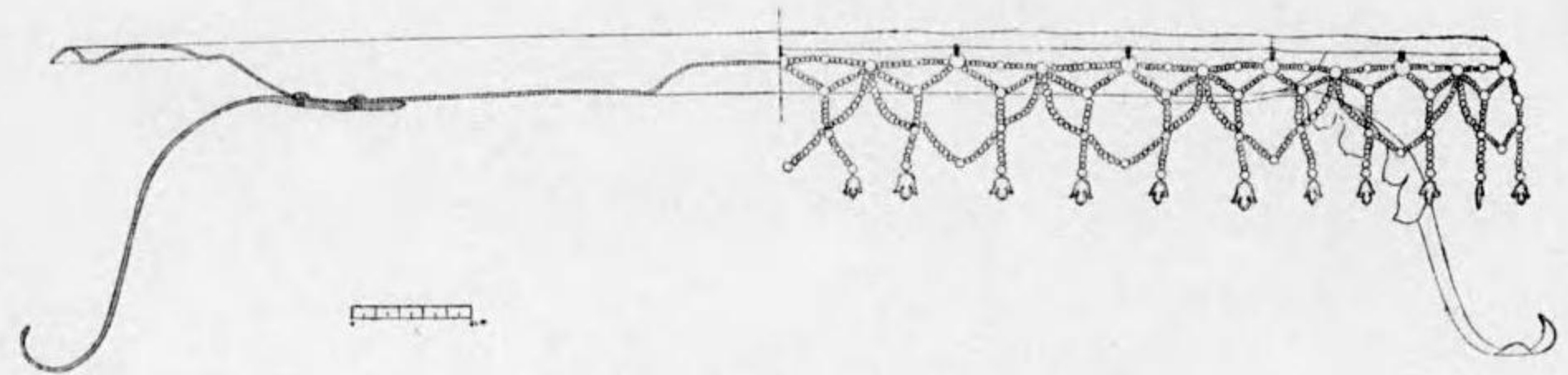
(高さ三分一)

第二十二圖 金銀花盤

第二十三圖 金 銀 花 盤

(前寛三分ノ二)

前掲花盤の上面と側面とを出す。盤面は六花形に窪み、中央の鹿の頂には花状角美しく、縁の花文は三花一連づゝに配して總てで六連を算ふ。脚は各三個の星鉾にて留め、環珞は銀線にて綴る。



一ノ分四 圖 測 實 盤 花 銀 金



卷二十三 圖 金 飾 器 類

此器係一圓形之金飾，其中心刻有鹿之形，鹿之角甚小，且呈毛茸之狀。此器之邊緣飾有花紋，其形如蓮花。此器之用途，蓋為裝飾之用。其形制與西域之金飾無異。其出土之時間，約在西漢之末葉。其出土之地點，則在敦煌之西。



第二十四圖 金 銀 花 盤 [部分] (原寸大)

銀板を槌起して先づ大體の形を作り、細部を鑿の技術に待つたもので、鹿の目・口・角・胸毛・背毛等何れも鑿刻にてあらはす。鹿の頂上に花状角の隆起するのは、西域高昌圖發見の壁畫中にも見らるゝところで、以つて其の據る所の遠きを思はせる。

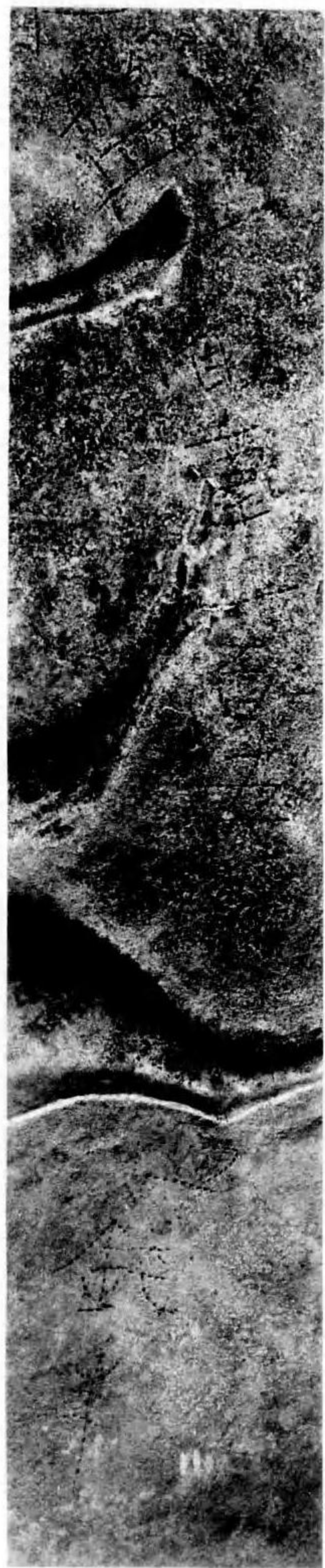
第二十五圖 金 銀 花 盤 [銘文] (原寸大)

花盤の背面に於いて二連の銘文を廻旋的に刻す。一つは

「東大寺花盤重大六斤八兩」他は

「字號二尺盤一面重一百五兩四錢半」

と讀まれる。今二者の刻文を較べるに前者は鑿のスキ刻りなるに後者は鑿のケリ刻りを用ひ、且つ其の書體にも相異がある。而して後者の技法が盤表面文様の鑿刻に似てゐる事は、後者こそ製作時の銘文で、前者は其の追銘たるを思はせる。蓋し本器はもと舶載品なりしを、其の東大寺に納るゝに當り追銘せるものではあるまいか。重大六斤八兩は一百四兩となり、重一百五兩四錢半と相近い事も興味がある。錢は後世の匁に同じである。



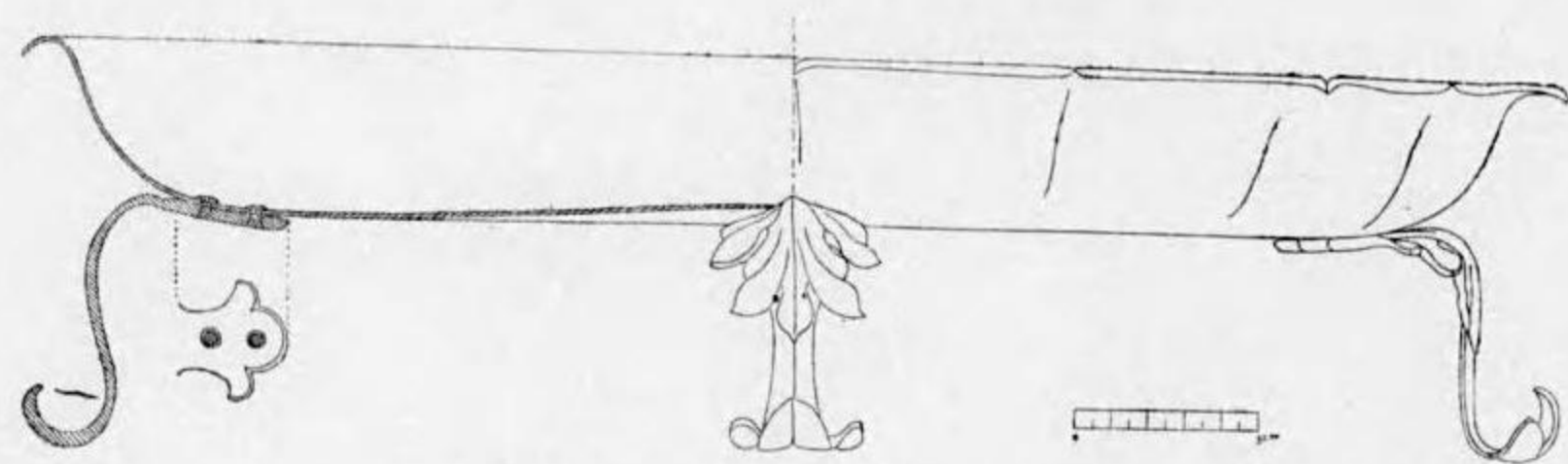
Faint, illegible text or markings on the right page, possibly bleed-through or very light inscriptions.

第二十六圖 八角銀盤三枚ノ一

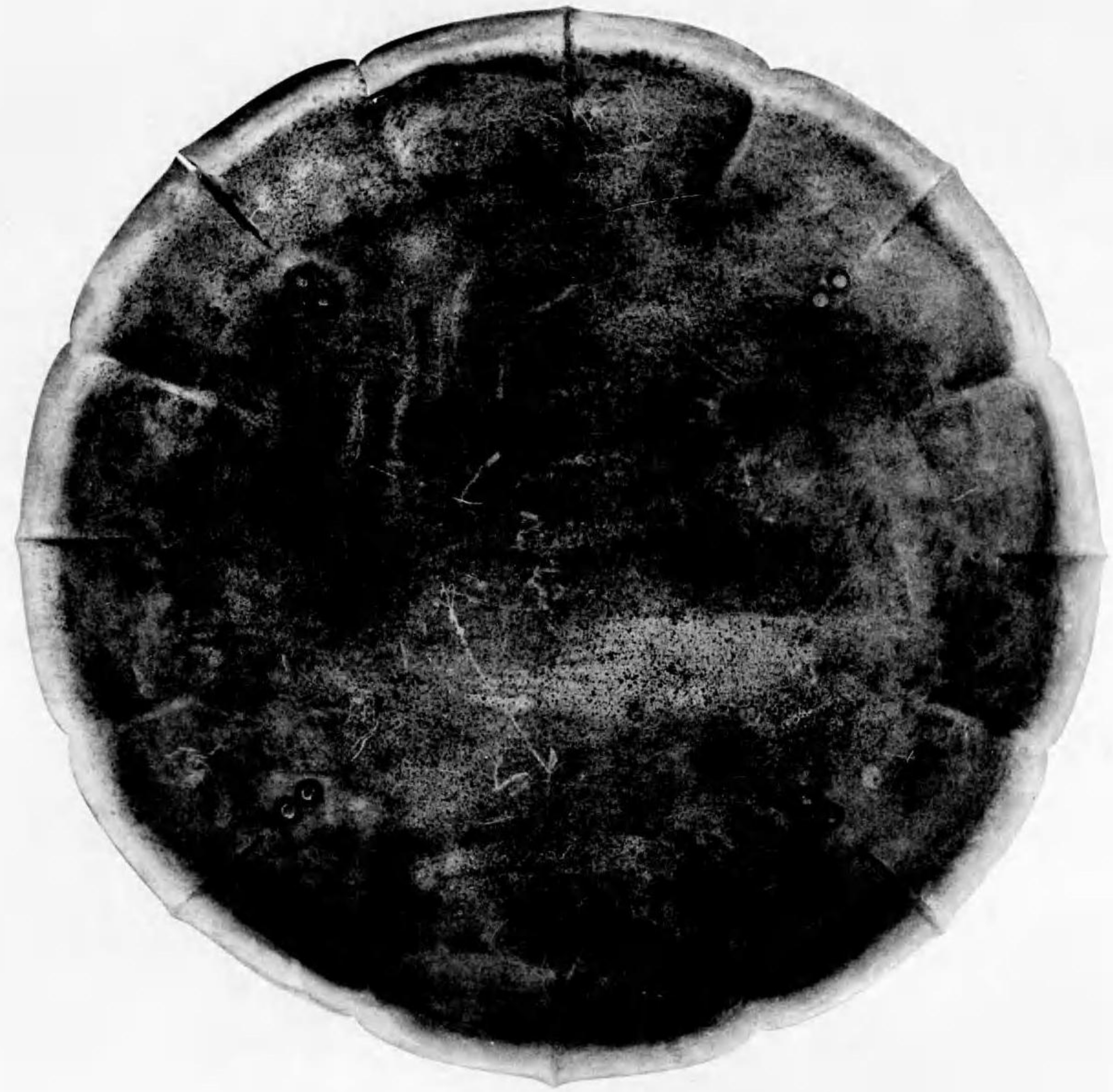
(縮寫三分一)

徑 四二〇糎 深 四五糎
厚 〇二糎 總高 一二三糎
重 二一七五〇瓦

銀盤槌製、八稜花形の盤に、
銀製花葉狀の四脚を附したも
のである。四脚中三脚は新補、舊
物は一脚のみ。圖向つて左は其
の舊物である。又盤側面には花
枝文を毛彫し之に鍍金を施し、
底裏中央には「重大三斤三兩」
の刻文をなす。



一ノ分三 圖測實盤銀角八



第一十六圖 八角形銅盤

此盤之形制與前圖之盤相似，惟其形制更為八角形，且其表面之紋飾亦與前圖之盤不同。其表面之紋飾為一種由多個小圓點組成的圖案，這些小圓點排列成一個大致的八角形。此外，此盤之邊緣亦呈八角形，且其邊緣之紋飾亦與前圖之盤不同。此盤之形制與前圖之盤相似，惟其形制更為八角形，且其表面之紋飾亦與前圖之盤不同。



第二十七圖 八角銀盤三枚ノ二 (上)

(縮寫二分ノ一)

徑 四二〇糎 深 四六糎 厚 〇・二糎

總高 一〇六糎 重 二二二斤

八角銀盤三枚ノ三 (中)

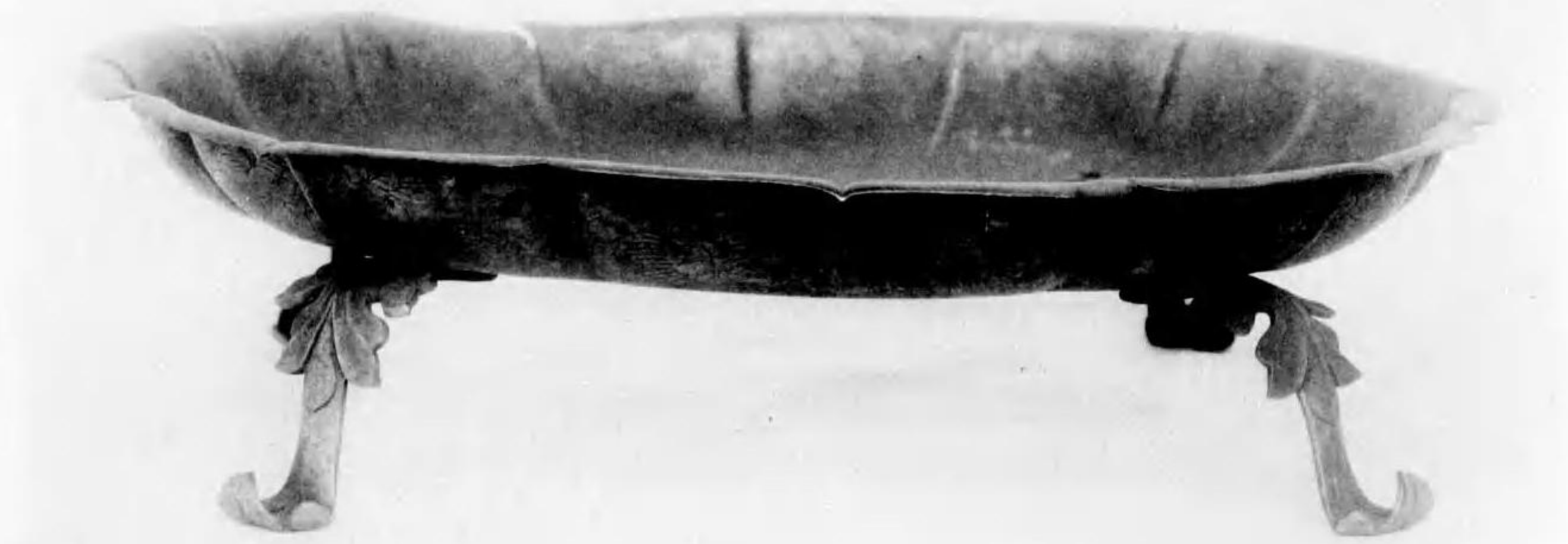
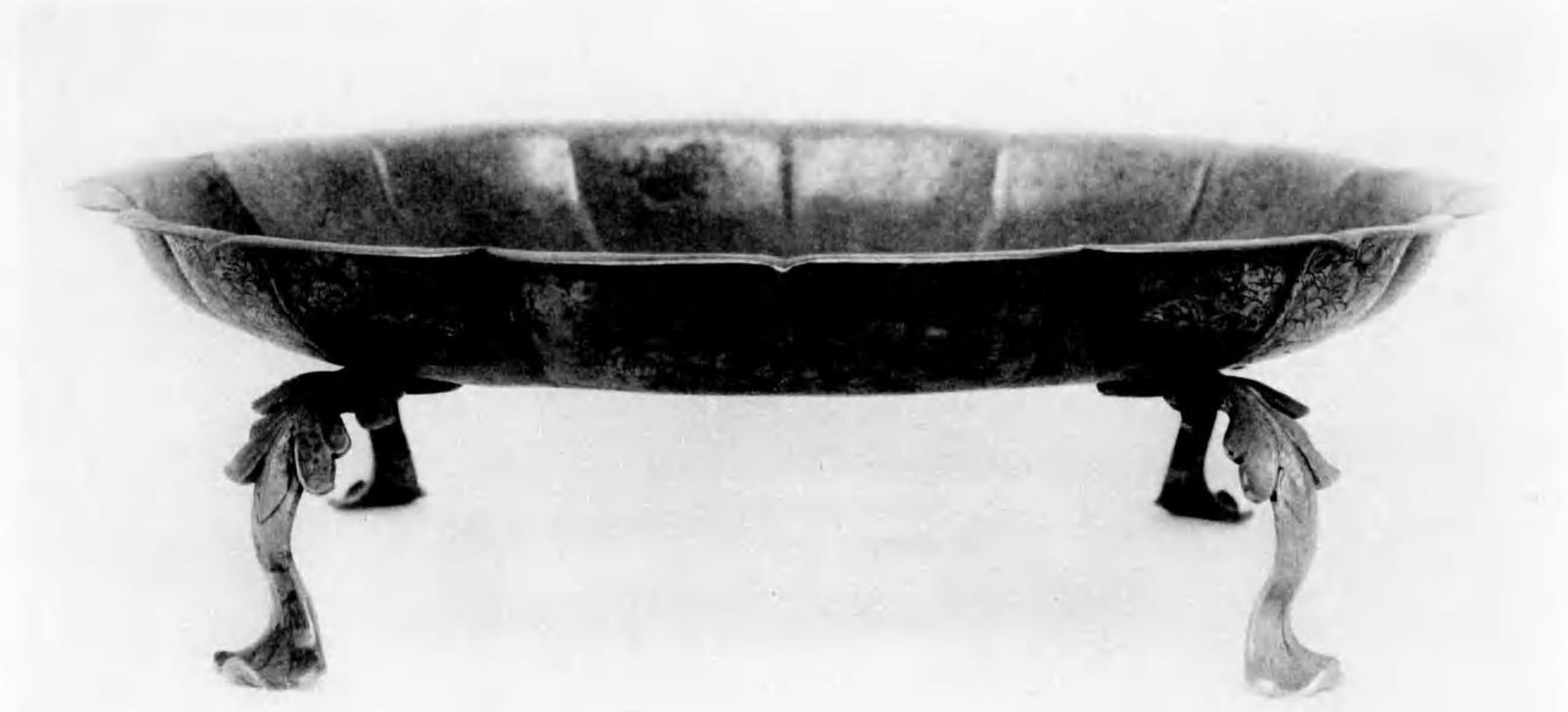
(縮寫二分ノ一)

徑 四二〇糎 深 四一糎 厚 〇・二糎

總高 一〇八糎 重 二二九斤

形態文様等總て前掲「一」に同じである。たゞ「二」の背面には「重大三斤四兩」と刻し、「三」には「重大三斤八兩」と刻す。

下圖は盤側面の文様を原寸大に示す。



第二十回 八代徳政三書之二 (上) 徳政三書

徳政三書 卷之三 徳政三書

八代徳政三書之二 (上) 徳政三書

徳政三書 卷之三 徳政三書

徳政三書 卷之三 徳政三書
 徳政三書 卷之三 徳政三書
 徳政三書 卷之三 徳政三書
 徳政三書 卷之三 徳政三書

第二十八圖 長八角銀盤

(上箱寫七分ノ四、下原寸大)

長徑 四二五種 短徑 三三六種 深 四二二種

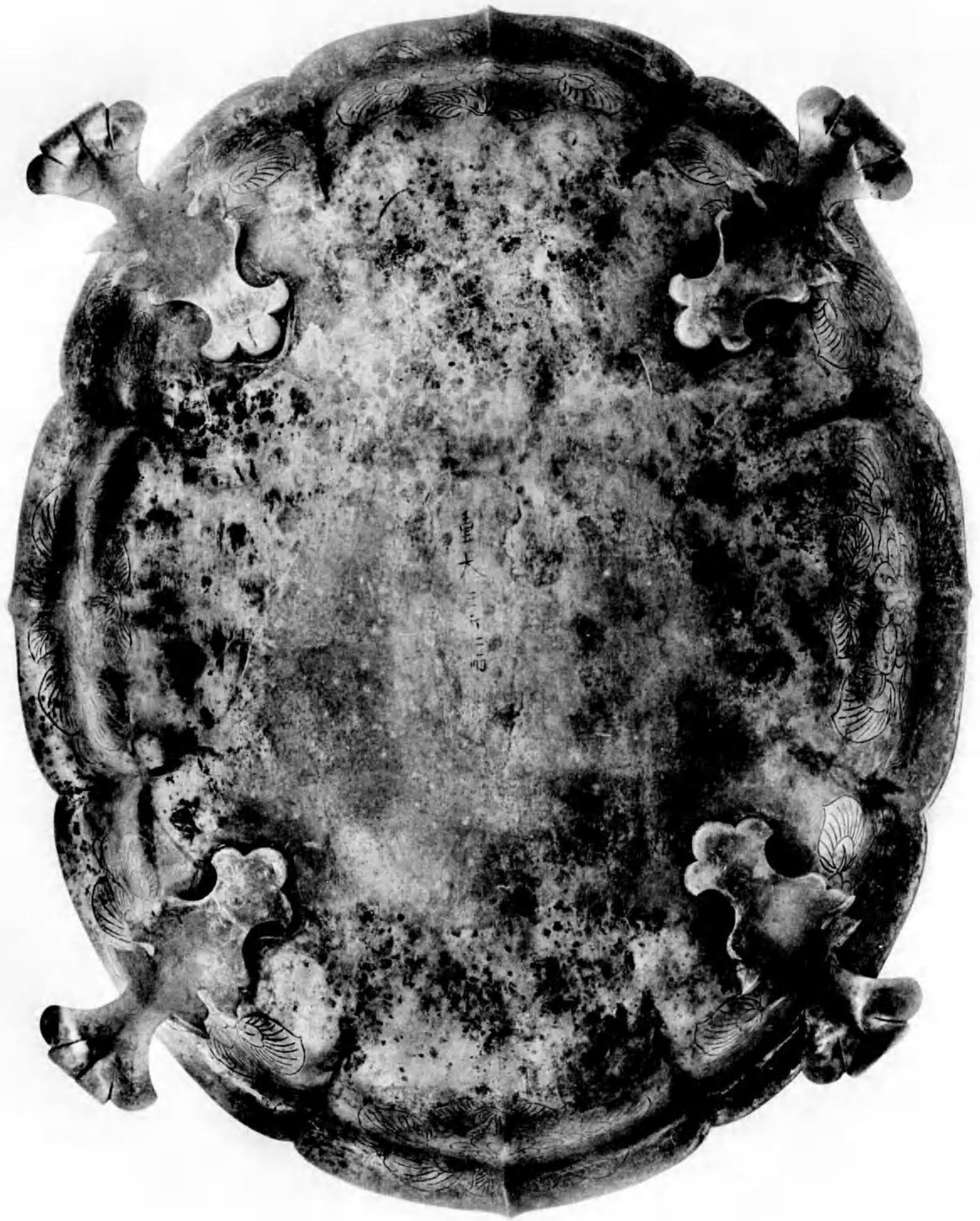
厚 〇・三種 總高 一〇〇種 重

盤は長楕圓八稜形をなし、銀板槌製にして、
又花葉狀の四脚を具す。脚の形狀、盤外側の花
枝の刻文等は前掲八角銀盤のそれらと殆んど同
じである。上圖は全形、下圖は側面刻文を原寸
大に示す。

第二十九圖 長八角銀盤

(縮寫五分ノ三)

前掲長八角銀盤の背面を寫す。花葉狀の四脚は、それぞれ二個の銀釘により盤に連接せられ、中央に當つて「重大三斤二兩」の銘記を刻す。



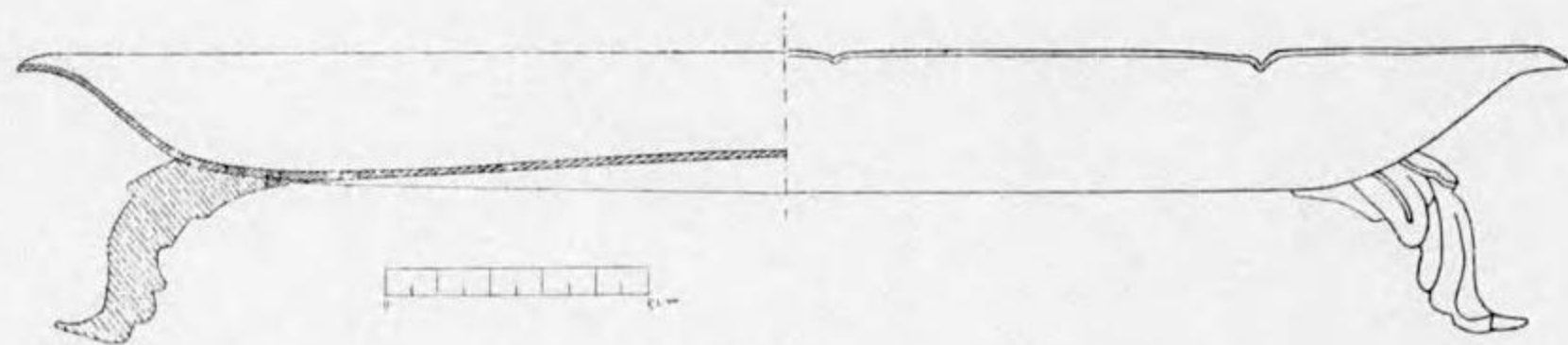
1870
1871
1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
1897
1898
1899
1900

第三十圖 六角金銅盤

(縮寫四分ノ三)

徑 二九五種 深 二〇種
厚 〇三五種 高 五六種

鑄銅の素形を轆轤挽きして作
つたもので、表背共に鍍金を施
し、底に花足六個を附す。花足
は金銅の鑄物で、其の盤への取
り付けには鋸によらず脚より柄
を立てそれによつてゐる。脚六
本の内二本は新補、又盤背面に
は「東小塔」の墨書をなす。圖
は盤の側面と背面とを示す。



一ノ分二 圖測實盤銅金角六

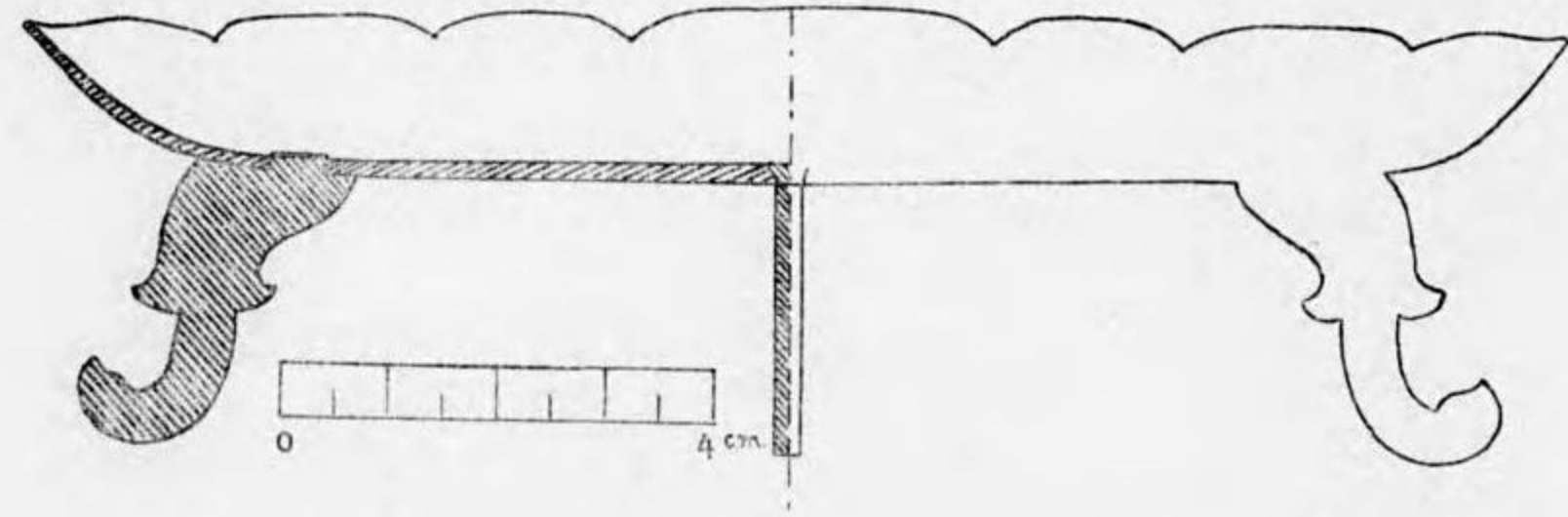
第三十一圖 十二角金銅小盤

(原寸大)

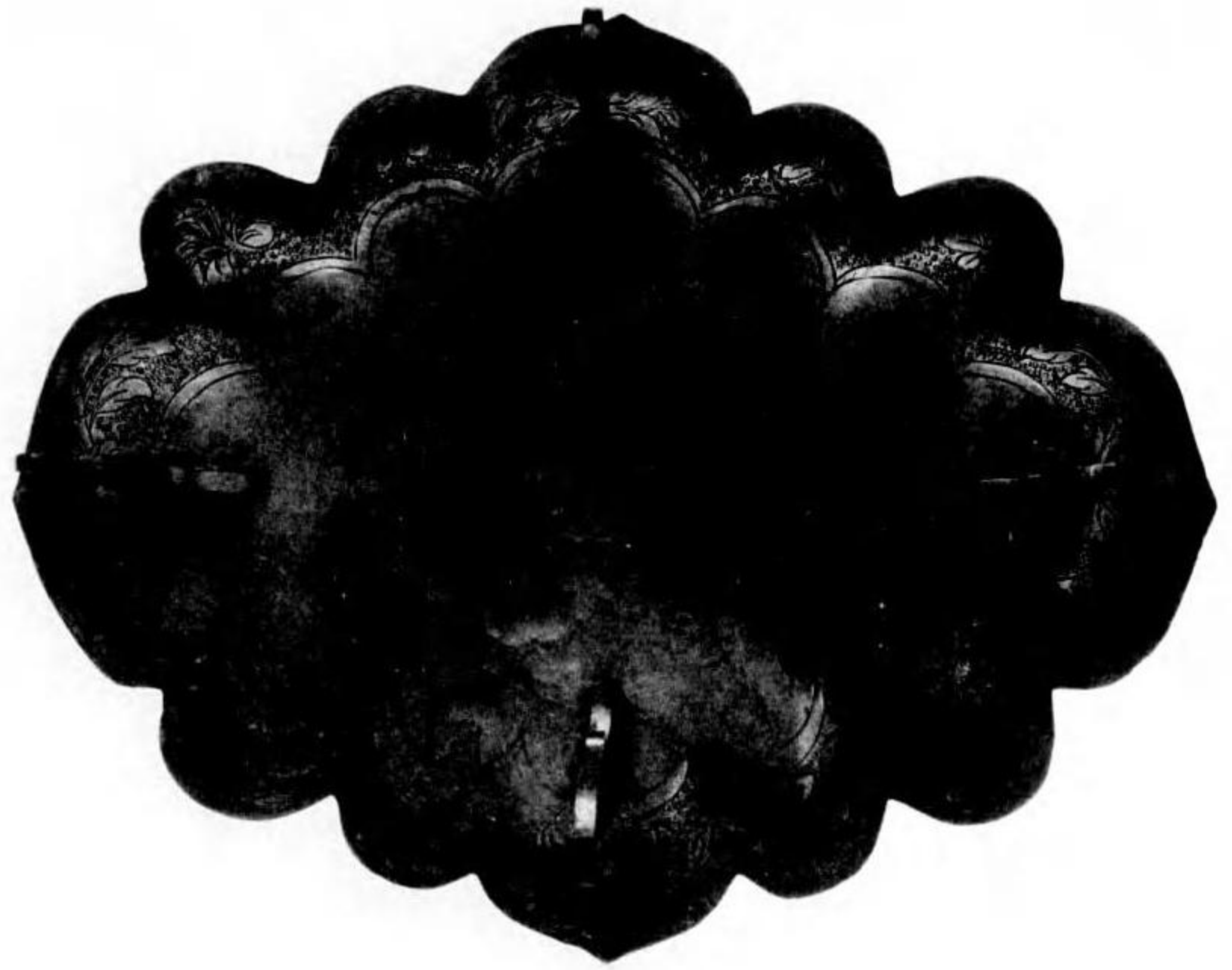
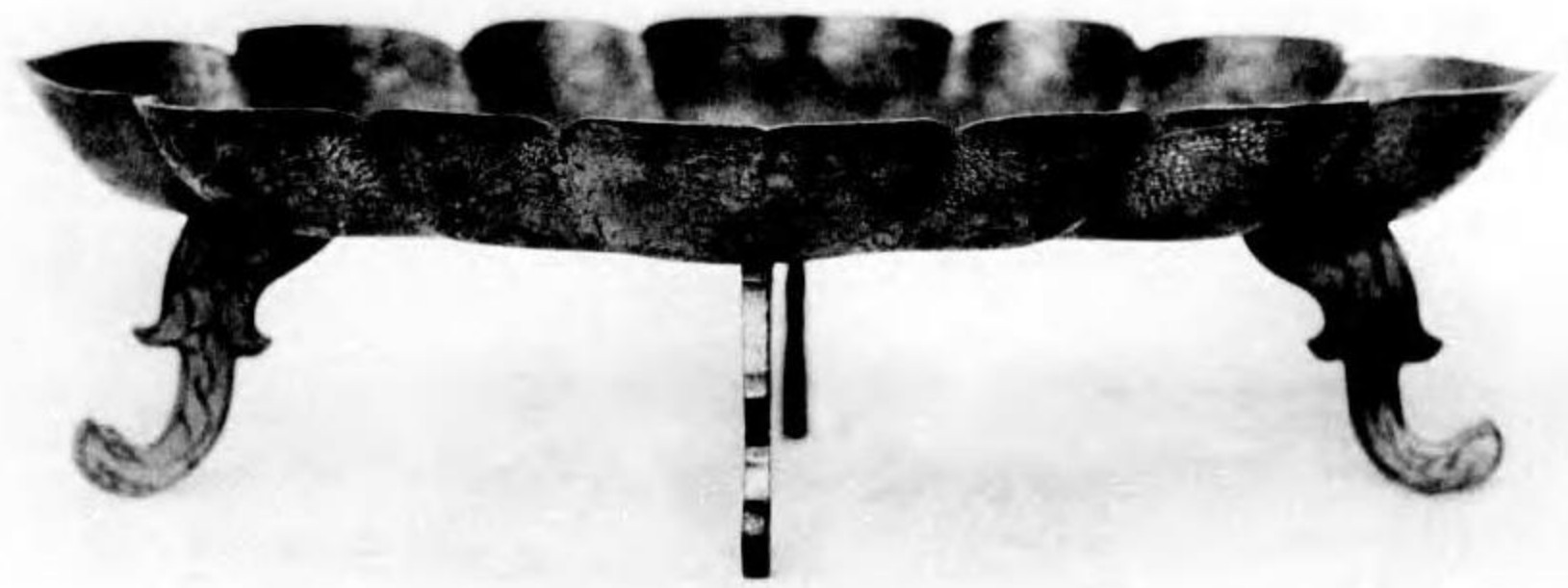
長徑 一四・二釐 短徑 一一・三釐
厚 〇・二釐 總高 四・〇釐

菱形十二曲の小盤で、花足四脚をつけ、盤の内面と側面とは魚々子地に細密の毛彫を施す。毛彫は盤面の十二曲の輪廓に従つて唐花唐草の窠文、外側面に大小の花卉文十二株を配す。地の魚々子は銀壺のそれに比べて稍粗であるが、技巧は同じである。脚は銅厚板を花足形に切つて花葉を鏤刻したものを用ひ、一端を柄にして脚内面よりうちつぶして止めてゐるが、その柄頂に線刻と魚々子を補してゐるのは作者の細心な注意を思はせる。

圖上は盤内面、次は側面、下圖は背面を示す。



原寸 圖 十二角金銅小盤實測圖



第三十二圖 十二頁金銀小器

此器之形制與前圖者無異，惟其裝飾之精，則較前圖者尤甚。其表面之紋飾，均係以金銀絲線鑲嵌而成，其色澤之鮮明，與前圖者迥然不同。此器之大小，亦與前圖者相若，惟其重量則較前圖者為重。此器之用途，亦與前圖者無異，惟其裝飾之精，則較前圖者尤甚。此器之大小，亦與前圖者相若，惟其重量則較前圖者為重。此器之用途，亦與前圖者無異。



第三十二圖 漆彩繪花形盤廿九枚ノ内

(縮尺四分ノ三)

堅 三九〇種 横 三七八種
深 二〇種 高 二八種

柱の材を板目に用ひ、

板合の花形に刻り嵌手狀

の四脚を附したもので、

その用途に就いては不明

であるが、御府中現に廿

九枚を存す。何れも其の

内面には朱漆を塗り、周

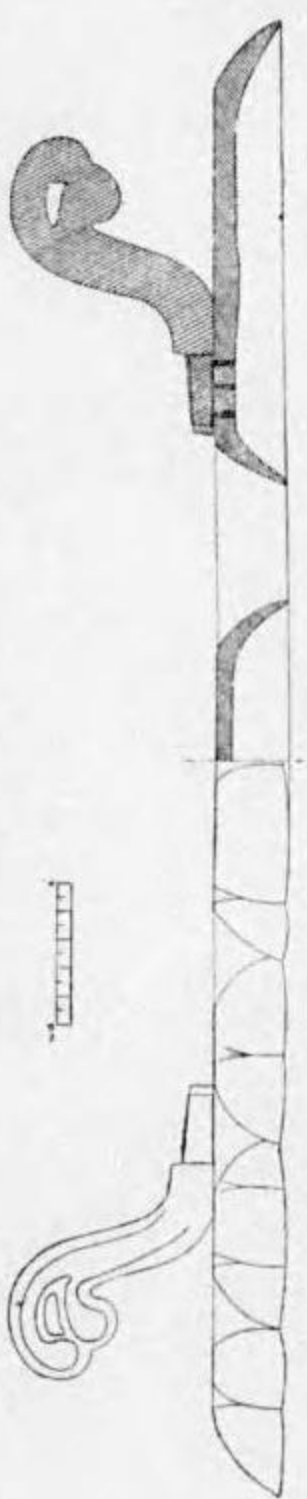
縁に金箔押の覆輪をとり、

外面には黒漆地に花文の

彩繪を施す。圖はその一

をとつて斜上より見たと

ころを示す。



一ノ分四

圖 漆彩繪花形盤廿九枚ノ内

第三十三圖 漆彩繪花形盤廿九枚ノ内

(縮寫五分ノ三)

上圖は前掲花形盤の眞上より寫し、下圖はその正側を示す。中央に四瓣十二曲花形盤を先づ作り、その四隅に葉狀の盤を附屬せしめたかの如き平面をなすも、すべて一木を刳つてこれをなし、脚だけを隨時に取りつける装置にしてゐる。側面の文様は黒漆地に赤・綠・黃・褐等の諸色にて描かれ、盤内面の朱彩とよき對照をなす。

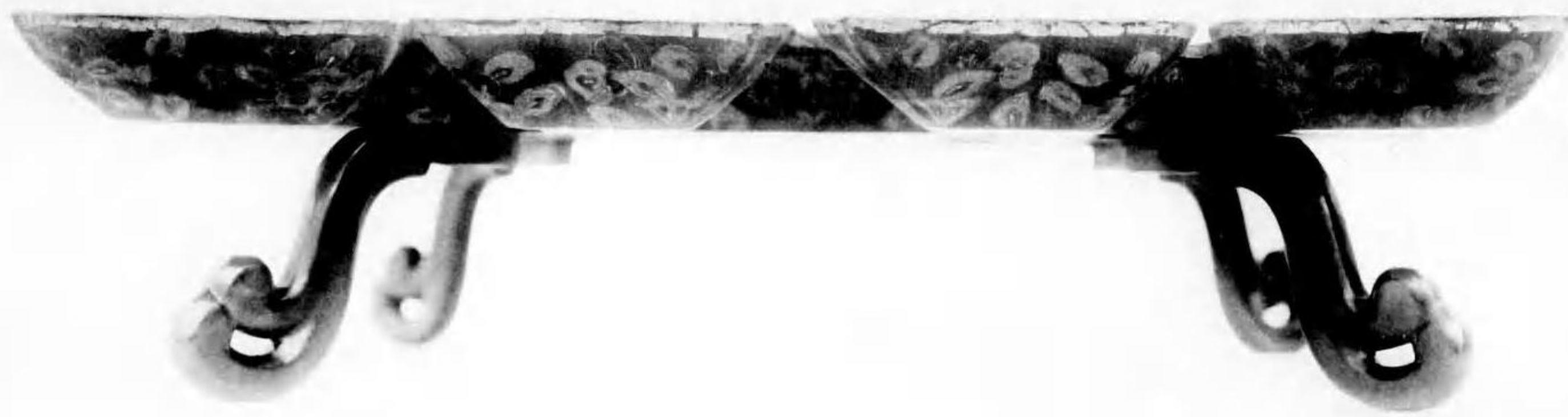
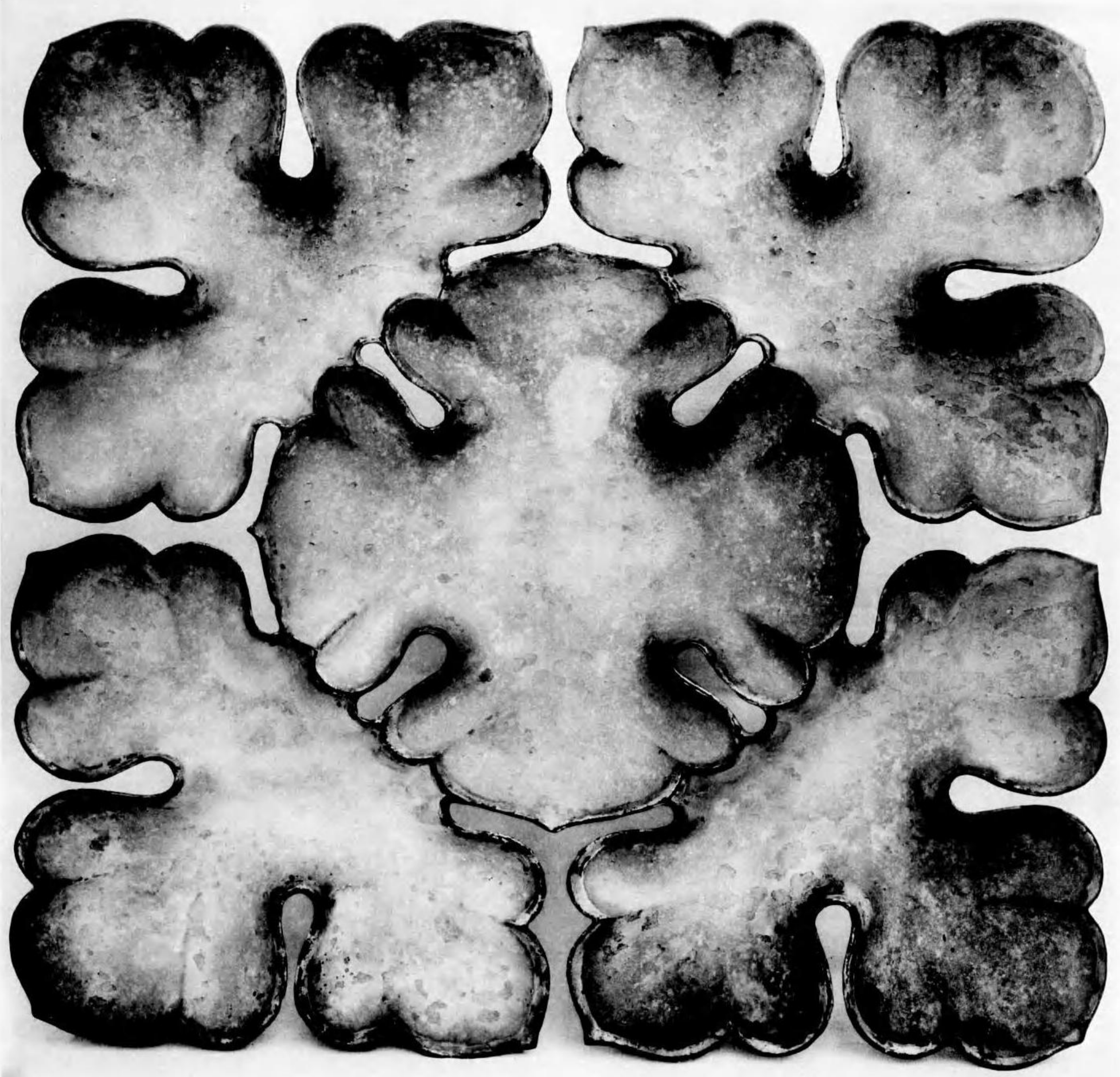


Figure 1. The objects shown in the photograph are the same as those shown in the photograph on the opposite page. The objects are made of wood and are used for the same purpose as the objects shown in the photograph on the opposite page. The objects are made of wood and are used for the same purpose as the objects shown in the photograph on the opposite page.

第三十四圖 漆彩繪花形盤廿九枚ノ内

(縮寫五分ノ三)

盤の背面を示す。側面と底面との界には朱線の限をとり、對角の四隅には鐵金具を貼して脚の挿入に備ふ。

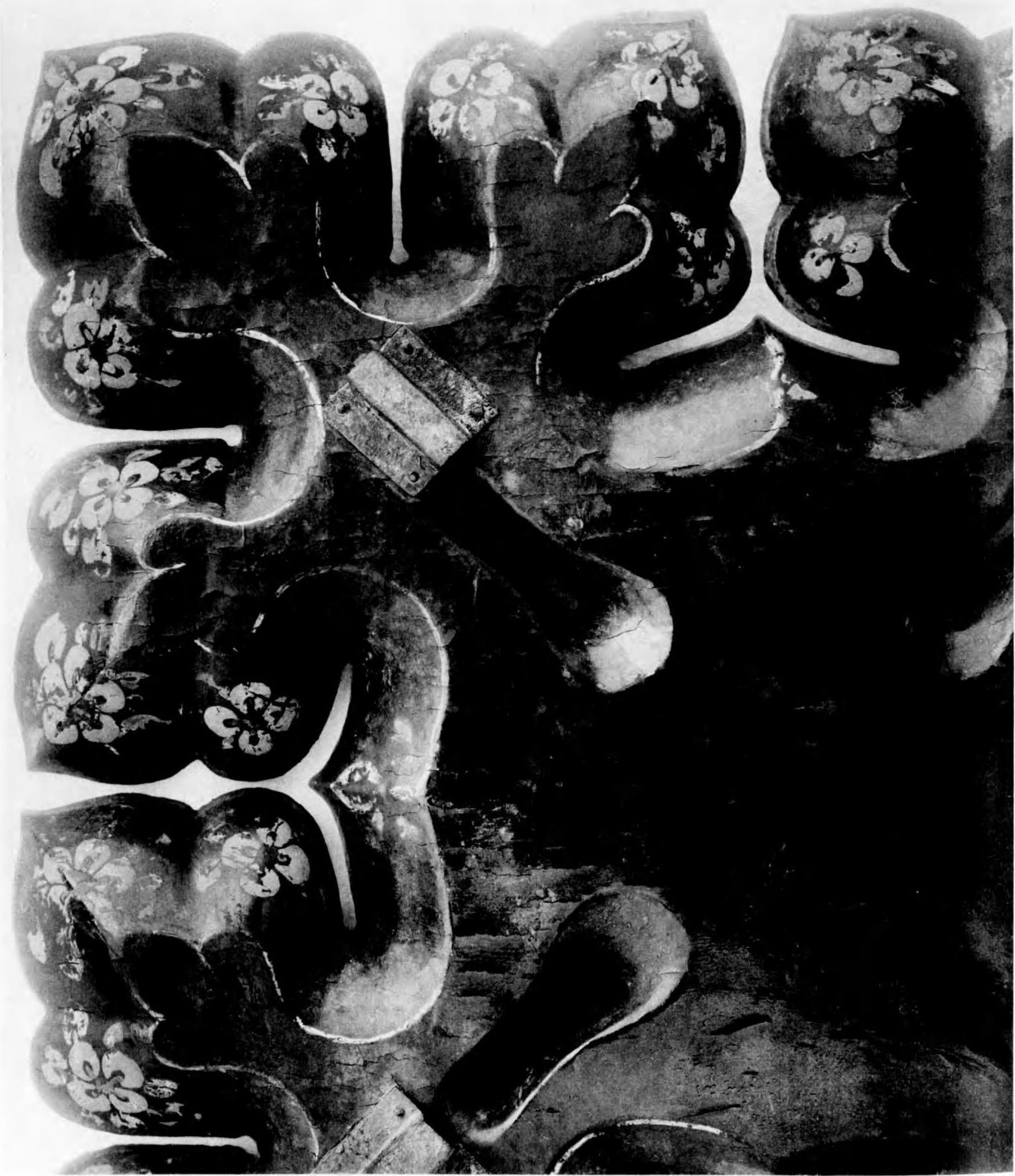
金具には各六紙をうち上より黒漆を塗る。



111-112, 113-114, 115-116, 117-118, 119-120, 121-122, 123-124, 125-126, 127-128, 129-130, 131-132, 133-134, 135-136, 137-138, 139-140, 141-142, 143-144, 145-146, 147-148, 149-150, 151-152, 153-154, 155-156, 157-158, 159-160, 161-162, 163-164, 165-166, 167-168, 169-170, 171-172, 173-174, 175-176, 177-178, 179-180, 181-182, 183-184, 185-186, 187-188, 189-190, 191-192, 193-194, 195-196, 197-198, 199-200, 201-202, 203-204, 205-206, 207-208, 209-210, 211-212, 213-214, 215-216, 217-218, 219-220, 221-222, 223-224, 225-226, 227-228, 229-230, 231-232, 233-234, 235-236, 237-238, 239-240, 241-242, 243-244, 245-246, 247-248, 249-250, 251-252, 253-254, 255-256, 257-258, 259-260, 261-262, 263-264, 265-266, 267-268, 269-270, 271-272, 273-274, 275-276, 277-278, 279-280, 281-282, 283-284, 285-286, 287-288, 289-290, 291-292, 293-294, 295-296, 297-298, 299-300, 301-302, 303-304, 305-306, 307-308, 309-310, 311-312, 313-314, 315-316, 317-318, 319-320, 321-322, 323-324, 325-326, 327-328, 329-330, 331-332, 333-334, 335-336, 337-338, 339-340, 341-342, 343-344, 345-346, 347-348, 349-350, 351-352, 353-354, 355-356, 357-358, 359-360, 361-362, 363-364, 365-366, 367-368, 369-370, 371-372, 373-374, 375-376, 377-378, 379-380, 381-382, 383-384, 385-386, 387-388, 389-390, 391-392, 393-394, 395-396, 397-398, 399-400, 401-402, 403-404, 405-406, 407-408, 409-410, 411-412, 413-414, 415-416, 417-418, 419-420, 421-422, 423-424, 425-426, 427-428, 429-430, 431-432, 433-434, 435-436, 437-438, 439-440, 441-442, 443-444, 445-446, 447-448, 449-450, 451-452, 453-454, 455-456, 457-458, 459-460, 461-462, 463-464, 465-466, 467-468, 469-470, 471-472, 473-474, 475-476, 477-478, 479-480, 481-482, 483-484, 485-486, 487-488, 489-490, 491-492, 493-494, 495-496, 497-498, 499-500, 501-502, 503-504, 505-506, 507-508, 509-510, 511-512, 513-514, 515-516, 517-518, 519-520, 521-522, 523-524, 525-526, 527-528, 529-530, 531-532, 533-534, 535-536, 537-538, 539-540, 541-542, 543-544, 545-546, 547-548, 549-550, 551-552, 553-554, 555-556, 557-558, 559-560, 561-562, 563-564, 565-566, 567-568, 569-570, 571-572, 573-574, 575-576, 577-578, 579-580, 581-582, 583-584, 585-586, 587-588, 589-590, 591-592, 593-594, 595-596, 597-598, 599-600, 601-602, 603-604, 605-606, 607-608, 609-610, 611-612, 613-614, 615-616, 617-618, 619-620, 621-622, 623-624, 625-626, 627-628, 629-630, 631-632, 633-634, 635-636, 637-638, 639-640, 641-642, 643-644, 645-646, 647-648, 649-650, 651-652, 653-654, 655-656, 657-658, 659-660, 661-662, 663-664, 665-666, 667-668, 669-670, 671-672, 673-674, 675-676, 677-678, 679-680, 681-682, 683-684, 685-686, 687-688, 689-690, 691-692, 693-694, 695-696, 697-698, 699-700, 701-702, 703-704, 705-706, 707-708, 709-710, 711-712, 713-714, 715-716, 717-718, 719-720, 721-722, 723-724, 725-726, 727-728, 729-730, 731-732, 733-734, 735-736, 737-738, 739-740, 741-742, 743-744, 745-746, 747-748, 749-750, 751-752, 753-754, 755-756, 757-758, 759-760, 761-762, 763-764, 765-766, 767-768, 769-770, 771-772, 773-774, 775-776, 777-778, 779-780, 781-782, 783-784, 785-786, 787-788, 789-790, 791-792, 793-794, 795-796, 797-798, 799-800, 801-802, 803-804, 805-806, 807-808, 809-810, 811-812, 813-814, 815-816, 817-818, 819-820, 821-822, 823-824, 825-826, 827-828, 829-830, 831-832, 833-834, 835-836, 837-838, 839-840, 841-842, 843-844, 845-846, 847-848, 849-850, 851-852, 853-854, 855-856, 857-858, 859-860, 861-862, 863-864, 865-866, 867-868, 869-870, 871-872, 873-874, 875-876, 877-878, 879-880, 881-882, 883-884, 885-886, 887-888, 889-890, 891-892, 893-894, 895-896, 897-898, 899-900, 901-902, 903-904, 905-906, 907-908, 909-910, 911-912, 913-914, 915-916, 917-918, 919-920, 921-922, 923-924, 925-926, 927-928, 929-930, 931-932, 933-934, 935-936, 937-938, 939-940, 941-942, 943-944, 945-946, 947-948, 949-950, 951-952, 953-954, 955-956, 957-958, 959-960, 961-962, 963-964, 965-966, 967-968, 969-970, 971-972, 973-974, 975-976, 977-978, 979-980, 981-982, 983-984, 985-986, 987-988, 989-990, 991-992, 993-994, 995-996, 997-998, 999-1000, 1001-1002, 1003-1004, 1005-1006, 1007-1008, 1009-1010, 1011-1012, 1013-1014, 1015-1016, 1017-1018, 1019-1020, 1021-1022, 1023-1024, 1025-1026, 1027-1028, 1029-1030, 1031-1032, 1033-1034, 1035-1036, 1037-1038, 1039-1040, 1041-1042, 1043-1044, 1045-1046, 1047-1048, 1049-1050, 1051-1052, 1053-1054, 1055-1056, 1057-1058, 1059-1060, 1061-1062, 1063-1064, 1065-1066, 1067-1068, 1069-1070, 1071-1072, 1073-1074, 1075-1076, 1077-1078, 1079-1080, 1081-1082, 1083-1084, 1085-1086, 1087-1088, 1089-1090, 1091-1092, 1093-1094, 1095-1096, 1097-1098, 1099-1100, 1101-1102, 1103-1104, 1105-1106, 1107-1108, 1109-1110, 1111-1112, 1113-1114, 1115-1116, 1117-1118, 1119-1120, 1121-1122, 1123-1124, 1125-1126, 1127-1128, 1129-1130, 1131-1132, 1133-1134, 1135-1136, 1137-1138, 1139-1140, 1141-1142, 1143-1144, 1145-1146, 1147-1148, 1149-1150, 1151-1152, 1153-1154, 1155-1156, 1157-1158, 1159-1160, 1161-1162, 1163-1164, 1165-1166, 1167-1168, 1169-1170, 1171-1172, 1173-1174, 1175-1176, 1177-1178, 1179-1180, 1181-1182, 1183-1184, 1185-1186, 1187-1188, 1189-1190, 1191-1192, 1193-1194, 1195-1196, 1197-1198, 1199-1200, 1201-1202, 1203-1204, 1205-1206, 1207-1208, 1209-1210, 1211-1212, 1213-1214, 1215-1216, 1217-1218, 1219-1220, 1221-1222, 1223-1224, 1225-1226, 1227-1228, 1229-1230, 1231-1232, 1233-1234, 1235-1236, 1237-1238, 1239-1240, 1241-1242, 1243-1244, 1245-1246, 1247-1248, 1249-1250, 1251-1252, 1253-1254, 1255-1256, 1257-1258, 1259-1260, 1261-1262, 1263-1264, 1265-1266, 1267-1268, 1269-1270, 1271-1272, 1273-1274, 1275-1276, 1277-1278, 1279-1280, 1281-1282, 1283-1284, 1285-1286, 1287-1288, 1289-1290, 1291-1292, 1293-1294, 1295-1296, 1297-1298, 1299-1300, 1301-1302, 1303-1304, 1305-1306, 1307-1308, 1309-1310, 1311-1312, 1313-1314, 1315-1316, 1317-1318, 1319-1320, 1321-1322, 1323-1324, 1325-1326, 1327-1328, 1329-1330, 1331-1332, 1333-1334, 1335-1336, 1337-1338, 1339-1340, 1341-1342, 1343-1344, 1345-1346, 1347-1348, 1349-1350, 1351-1352, 1353-1354, 1355-1356, 1357-1358, 1359-1360, 1361-1362, 1363-1364, 1365-1366, 1367-1368, 1369-1370, 1371-1372, 1373-1374, 1375-1376, 1377-1378, 1379-1380, 1381-1382, 1383-1384, 1385-1386, 1387-1388, 1389-1390, 1391-1392, 1393-1394, 1395-1396, 1397-1398, 1399-1400, 1401-1402, 1403-1404, 1405-1406, 1407-1408, 1409-1410, 1411-1412, 1413-1414, 1415-1416, 1417-1418, 1419-1420, 1421-1422, 1423-1424, 1425-1426, 1427-1428, 1429-1430, 1431-1432, 1433-1434, 1435-1436, 1437-1438, 1439-1440, 1441-1442, 1443-1444, 1445-1446, 1447-1448, 1449-1450, 1451-1452, 1453-1454, 1455-1456, 1457-1458, 1459-1460, 1461-1462, 1463-1464, 1465-1466, 1467-1468, 1469-1470, 1471-1472, 1473-1474, 1475-1476, 1477-1478, 1479-1480, 1481-1482, 1483-1484, 1485-1486, 1487-1488, 1489-1490, 1491-1492, 1493-1494, 1495-1496, 1497-1498, 1499-1500, 1501-1502, 1503-1504, 1505-1506, 1507-1508, 1509-1510, 1511-1512, 1513-1514, 1515-1516, 1517-1518, 1519-1520, 1521-1522, 1523-1524, 1525-1526, 1527-1528, 1529-1530, 1531-1532, 1533-1534, 1535-1536, 1537-1538, 1539-1540, 1541-1542, 1543-1544, 1545-1546, 1547-1548, 1549-1550, 1551-1552, 1553-1554, 1555-1556, 1557-1558, 1559-1560, 1561-1562, 1563-1564, 1565-1566, 1567-1568, 1569-1570, 1571-1572, 1573-1574, 1575-1576, 1577-1578, 1579-1580, 1581-1582, 1583-1584, 1585-1586, 1587-1588, 1589-1590, 1591-1592, 1593-1594, 1595-1596, 1597-1598, 1599-1600, 1601-1602, 1603-1604, 1605-1606, 1607-1608, 1609-1610, 1611-1612, 1613-1614, 1615-1616, 1617-1618, 1619-1620, 1621-1622, 1623-1624, 1625-1626, 1627-1628, 1629-1630, 1631-1632, 1633-1634, 1635-1636, 1637-1638, 1639-1640, 1641-1642, 1643-1644, 1645-1646, 1647-1648, 1649-1650, 1651-1652, 1653-1654, 1655-1656, 1657-1658, 1659-1660, 1661-1662, 1663-1664, 1665-1666, 1667-1668, 1669-1670, 1671-1672, 1673-1674, 1675-1676, 1677-1678, 1679-1680, 1681-1682, 1683-1684, 1685-1686, 1687-1688, 1689-1690, 1691-1692, 1693-1694, 1695-1696, 1697-1698, 1699-1700, 1701-1702, 1703-1704, 1705-1706, 1707-1708, 1709-1710, 1711-1712, 1713-1714, 1715-1716, 1717-1718, 1719-1720, 1721-1722, 1723-1724, 1725-1726, 1727-1728, 1729-1730, 1731-1732, 1733-1734, 1735-1736, 1737-1738, 1739-1740, 1741-1742, 1743-1744, 1745-1746, 1747-1748, 1749-1750, 1751-1752, 1753-1754, 1755-1756, 1757-1758, 1759-1760, 1761-1762, 1763-1764, 1765-1766, 1767-1768, 1769-1770, 1771-1772, 1773-1774, 1775-1776, 1777-1778, 1779-1780, 1781-1782, 1783-1784, 1785-1786, 1787-1788, 1789-1790, 1791-1792, 1793-1794, 1795-1796, 1797-1798, 1799-1800, 1801-1802, 1803-1804, 1805-1806, 1807-1808, 1809-1810, 1811-1812, 1813-1814, 1815-1816, 1817-1818, 1819-1820, 1821-1822, 1823-1824, 1825-1826, 1827-1828, 1829-1830, 1831-1832, 1833-1834, 1835-1836, 1837-1838, 1839-1840, 1841-1842, 1843-1844, 1845-1846, 1847-1848, 1849-1850, 1851-1852, 1853-1854, 1855-1856, 1857-1858, 1859-1860, 1861-1862, 1863-1864, 1865-1866, 1867-1868, 1869-1870, 1871-1872, 1873-1874, 1875-1876, 1877-1878, 1879-1880, 1881-1882, 1883-1884, 1885-1886, 1887-1888, 1889-1890, 1891-1892, 1893-1894, 1895-1896, 1897-1898, 1899-1900, 1901-1902, 1903-1904, 1905-1906, 1907-1908, 1909-1910, 1911-1912, 1913-1914, 1915-1916, 1917-1918, 1919-1920, 1921-1922, 1923-1924, 1925-1926, 1927-1928, 1929-1930, 1931-1932, 1933-1934, 1935-1936, 1937-1938, 1939-1940, 1941-1942, 1943-1944, 1945-1946, 1947-1948, 1949-1950, 1951-1952, 1953-1954, 1955-1956, 1957-1958, 1959-1960, 1961-1962, 1963-1964, 1965-1966, 1967-1968, 1969-1970, 1971-1972, 1973-1974, 1975-1976, 1977-1978, 1979-1980, 1981-1982, 1983-1984, 1985-1986, 1987-1988, 1989-1990, 1991-1992, 1993-1994, 1995-1996, 1997-1998, 1999-2000, 2001-2002, 2003-2004, 2005-2006, 2007-2008, 2009-2010, 2011-2012, 2013-2014, 2015-2016, 2017-2018, 2019-2020, 2021-2022, 2023-2024, 2025-2026, 2027-2028, 2029-2030, 2031-2032, 2033-2034, 2035-2036, 2037-2038, 2039-2040, 2041-2042, 2043-2044, 2045-2046, 2047-2048, 2049-2050, 2051-2052, 2053-2054, 2055-2056, 2057-2058, 2059-2060, 2061-2062, 2063-2064, 2065-2066, 2067-2068, 2069-2070, 2071-2072, 2073-2074, 2075-2076, 2077-2078, 2079-2080, 2081-2082, 2083-2084, 2085-2086, 2087-2088, 2089-2090, 2091-2092, 2093-2094, 2095-2096, 2097-2098, 2099-2100, 2101-2102, 2103-2104, 2105-2106, 2107-2108, 2109-2110, 2111-2112, 2113-2114, 2115-2116, 2117-2118, 2119-2120, 2121-2122, 2123-2124, 2125-2126, 2127-2128, 2129-2130, 2131-2132, 2133-2134, 2135-2136, 2137-2138, 2139-2140, 2141-2142, 2143-2144, 2145-2146, 2147-2148, 2149-2150, 2151-2152, 2153-2154, 2155-2156, 2157-2158, 2159-2160, 2161-2162, 2163-2164, 2165-2166, 2167-2168, 2169-2170, 2171-2172, 2173-2174, 2175-2176, 2177-2178, 2179-2180, 2181-2182, 2183-2184, 2185-2186, 2187-2188, 2189-2190, 2191-2192, 2193-2194, 2195-2196, 2197-2198, 2199-2200, 2201-2202, 2203-2204, 2205-2206, 2207-2208, 2209-2210, 2211-2212, 2213-2214, 2215-2216, 2217-2218, 2219-2220, 2221-2222, 2223-2224, 2225-2226, 2227-2228, 2229-2230, 2231-2232, 2233-2234, 2235-2236, 2237-2238, 2239-2240, 2241-2242, 2243-2244, 2245-2246, 2247-2248, 2249-2250, 2251-2252, 2253-2254, 2255-2256, 2257-2258, 2259-2260, 2261-2262, 2263-2264, 2265-2266, 2267-2268, 2269-2270, 2271-2272, 2273-2274, 2275-2276, 2277-2278, 2279-2280, 2281-2282, 2283-2284, 2285-2286, 2287-2288, 2289-2290, 2291-2292, 2293-2294, 2295-2296, 2297-2298, 2299-2300, 2301-2302, 2303-2304, 2305-2306, 2307-2308, 2309-2310, 2311-2312, 2313-2314, 2315-2316, 2317-2318, 2319-2320, 2321-2322, 2323-2324, 2325-2326, 2327-2328, 2329-2330, 2331-2332, 2333-2334, 2335-2336, 2337-2338, 2339-2340, 2341-2342, 2343-2344, 2345-2346, 2347-2348, 2349-2350, 2351-2352, 2353-2354, 2355-2356, 2357-2358, 2359-2360, 2361-2362, 2363-2364, 2365-2366, 2367-2368, 2369-2370, 2371-2372, 2373-2374, 2375-2376, 2377-2378, 2379-2380, 2381-2382, 2383-2384, 2385-2386, 2387-2388, 2389-2390, 2391-2392, 2393-2394, 2395-2396, 2397-2398, 2399-2400, 2401-2402, 2403-2404, 2405-2406, 2407-2408, 2409-2410, 2411-2412, 2413-2414, 2415-2416, 2417-2418, 2419-2420, 2421-2422, 2423-2424, 2425-2426, 2427-2428, 2429-2430, 2431-2432, 2433-2434, 2435-2436, 2437-2438, 2439-2440, 2441-2442, 2443-2444, 2445-2446, 2447-2448, 2449-2450, 2451-2452, 2453-2454, 2455-2456, 2457-2458, 2459-2460, 2461-2462, 2463-2464, 2465-2466, 2467-2468, 2469-2470, 2471-2472, 2473-2474, 2475-2476, 2477-2478, 2479-2480, 2481-2482, 2483-2484, 2485-2486, 2487-2488, 2489-2490, 2491-2

第三十五圖 漆彩繪花形盤廿九枚ノ内〔部分〕〔原寸大〕

花形盤の背面を原寸大に撮る。脚をとりつ
ける鍍金具並に側面の彩繪花文は前掲のもの
と多少異なるも、大形等は全く同じである。黒
漆塗の下地には布を張り、圖中下方にはそれ
と察せられるところも見えてゐる。



第三十五圖 箱型草履(上) 花文

此草履は、箱型草履の一種で、上履として用いられる。花文は、花の模様を指す。

第三十六圖 刻彫梧桐金銀繪長花形合子二合ノ一

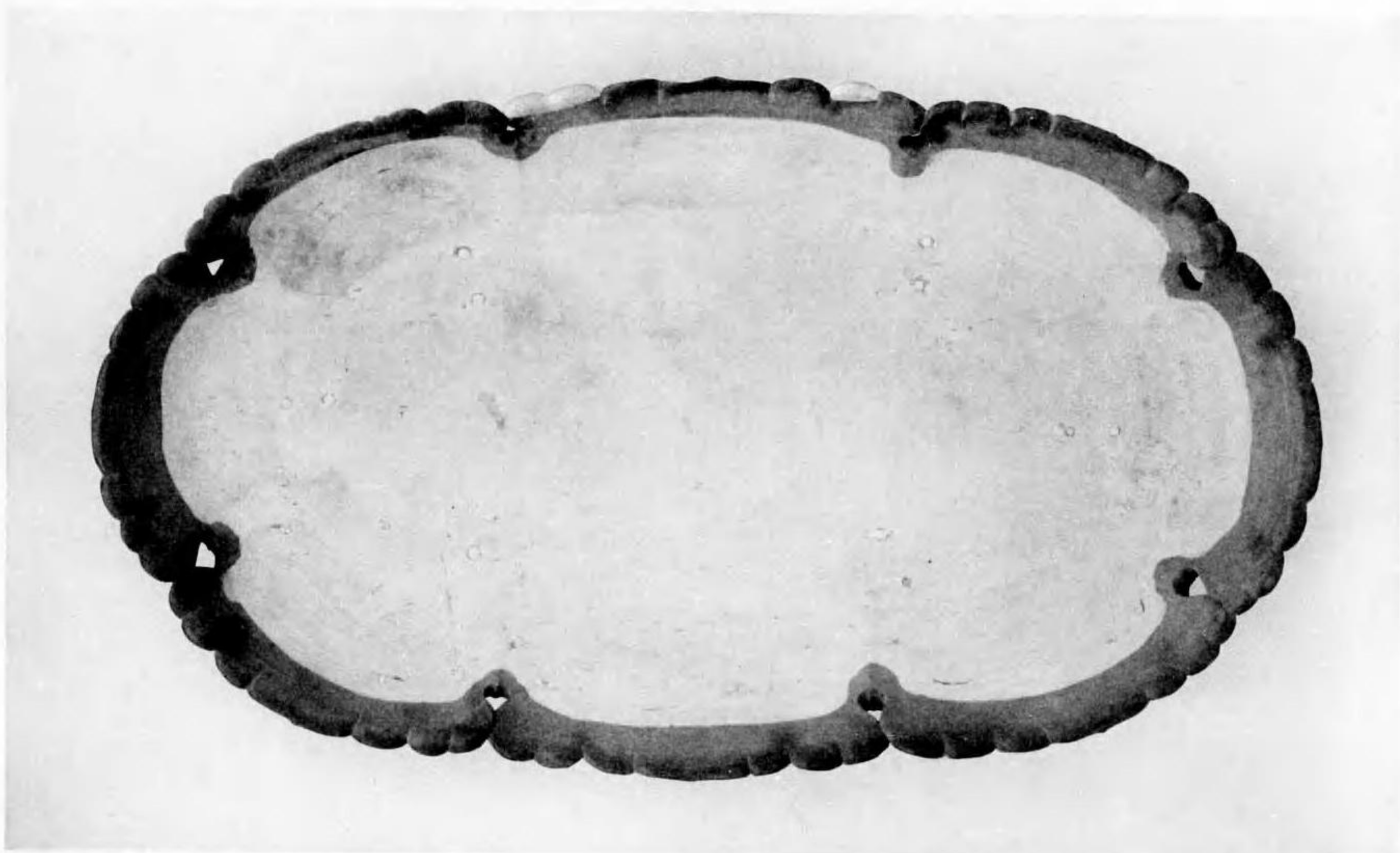
(縮寫三分ノ二)

〔身〕 長徑三〇三種 短徑一七四種 深二二八種

〔蓋〕 長徑三二九種 短徑一八八種 深二二五種

總高一・五種

梧桐の材を剝りぬいて作り、金銅板製の脚を附したもので、その平面は長楕圓八稜花形をなし、同形の共蓋を具す。蓋の表、身の側面には寶相花文を薄肉に浮彫りして金銀線の隈どりを施し、内面には胡粉を塗り銀泥の縁をとり、脚は葉狀に作り二個の鉸釘にて止む。上圖は合子の側面、下圖は身の内面を示す。



第三十六圖 藤澤海軍博物館蔵 皇太子御用 御座敷

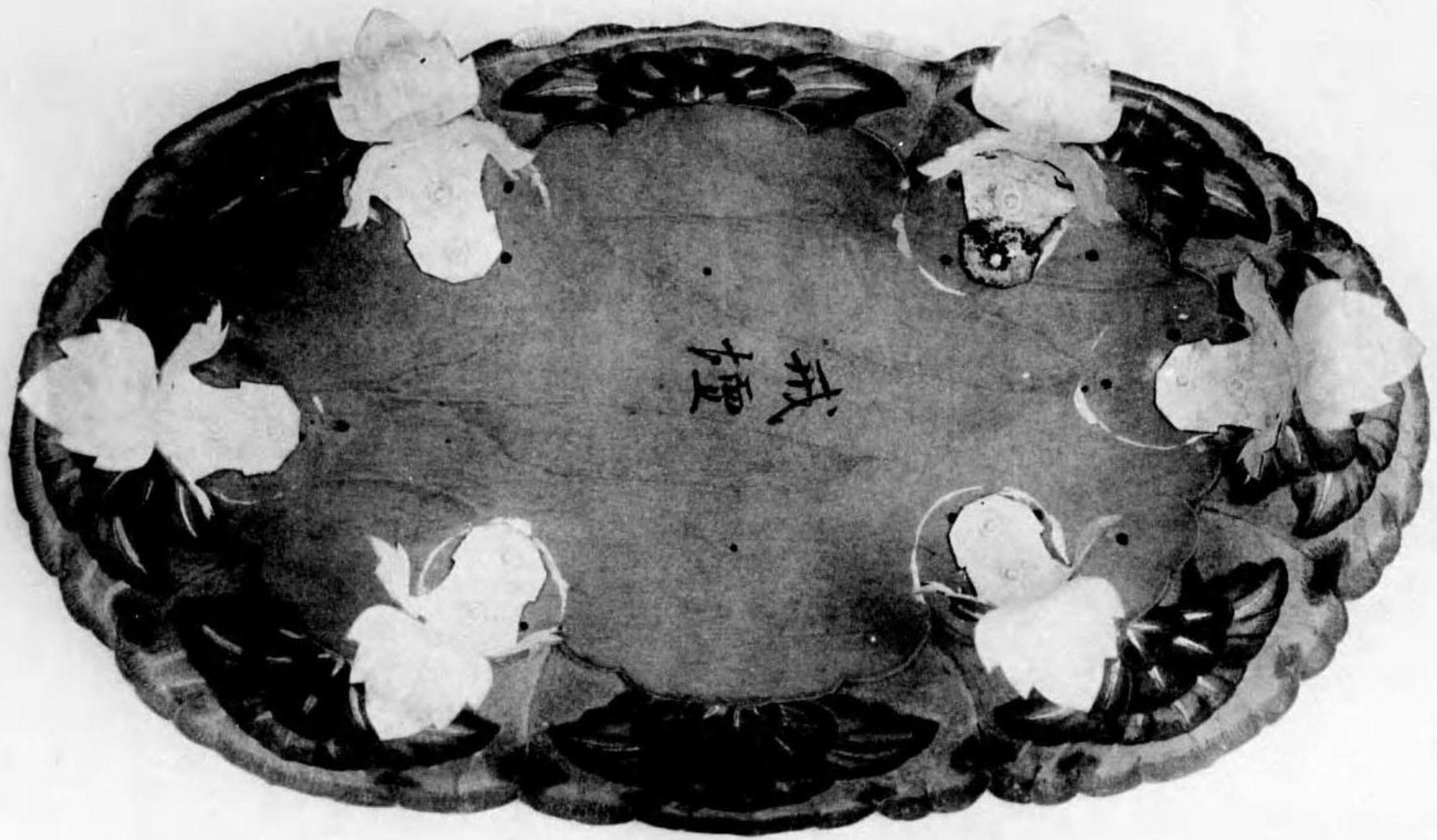
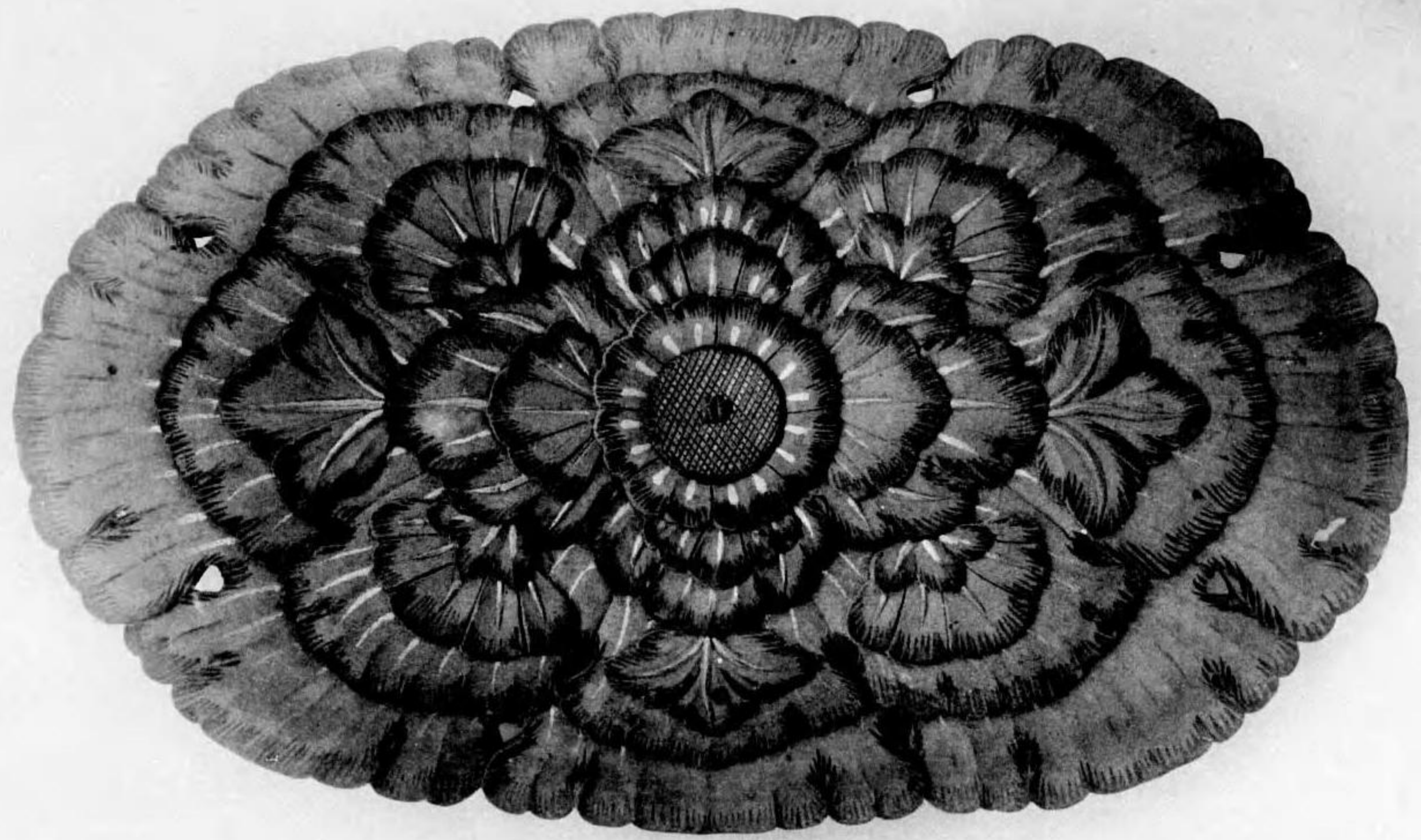
平の御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。
 皇太子御座敷、可憐なる御座敷也。

第三十七圖 刻彫梧桐金銀繪長花形合子二合ノ一

(前略三分ノ二)

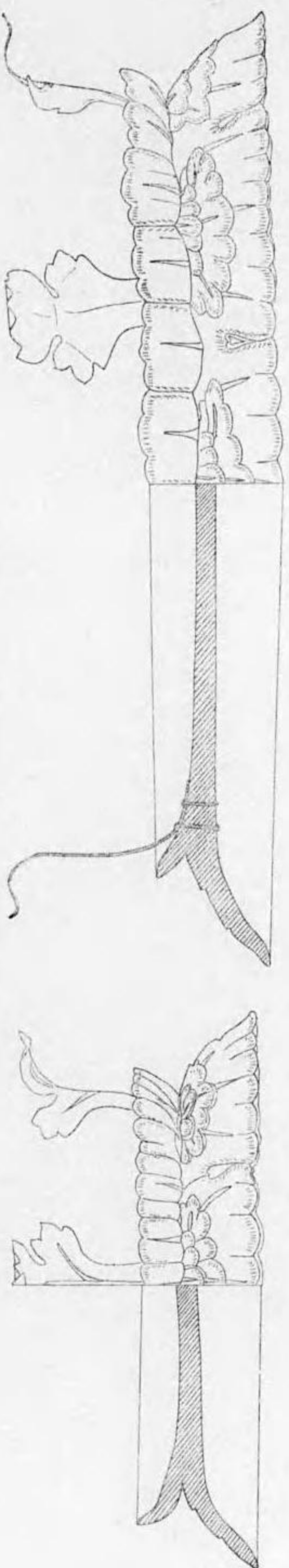
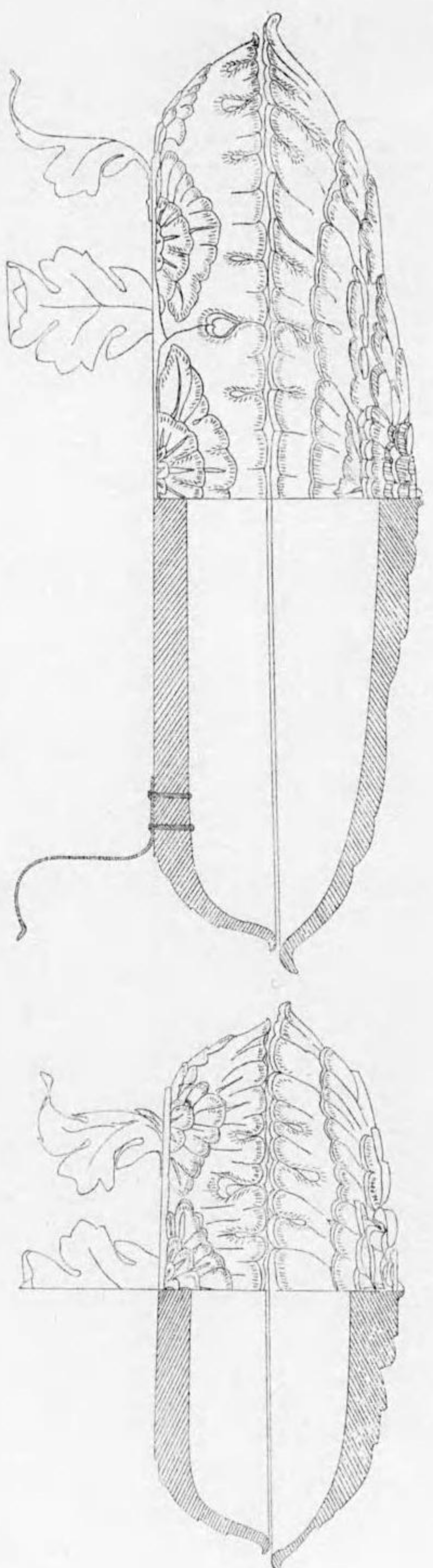
前掲合子の蓋表(上圖)と身の背面(下圖)とを示す。蓋には八瓣花文を志とする複合の大寶相花文をあらはし、所々猪目を透し、その蓋には朱彩を施し花瓣の筋には金線、その縁には銀の隈どり線を作る。圖中白く見えるは金、黒きは銀泥の描線である。

合子身の彫刻並に金銀繪も亦蓋に準ず。且つその背面中央には「戒壇」の二字を墨書し、葉狀の六脚を附す。但し脚は一本舊物五本は新補のものである。

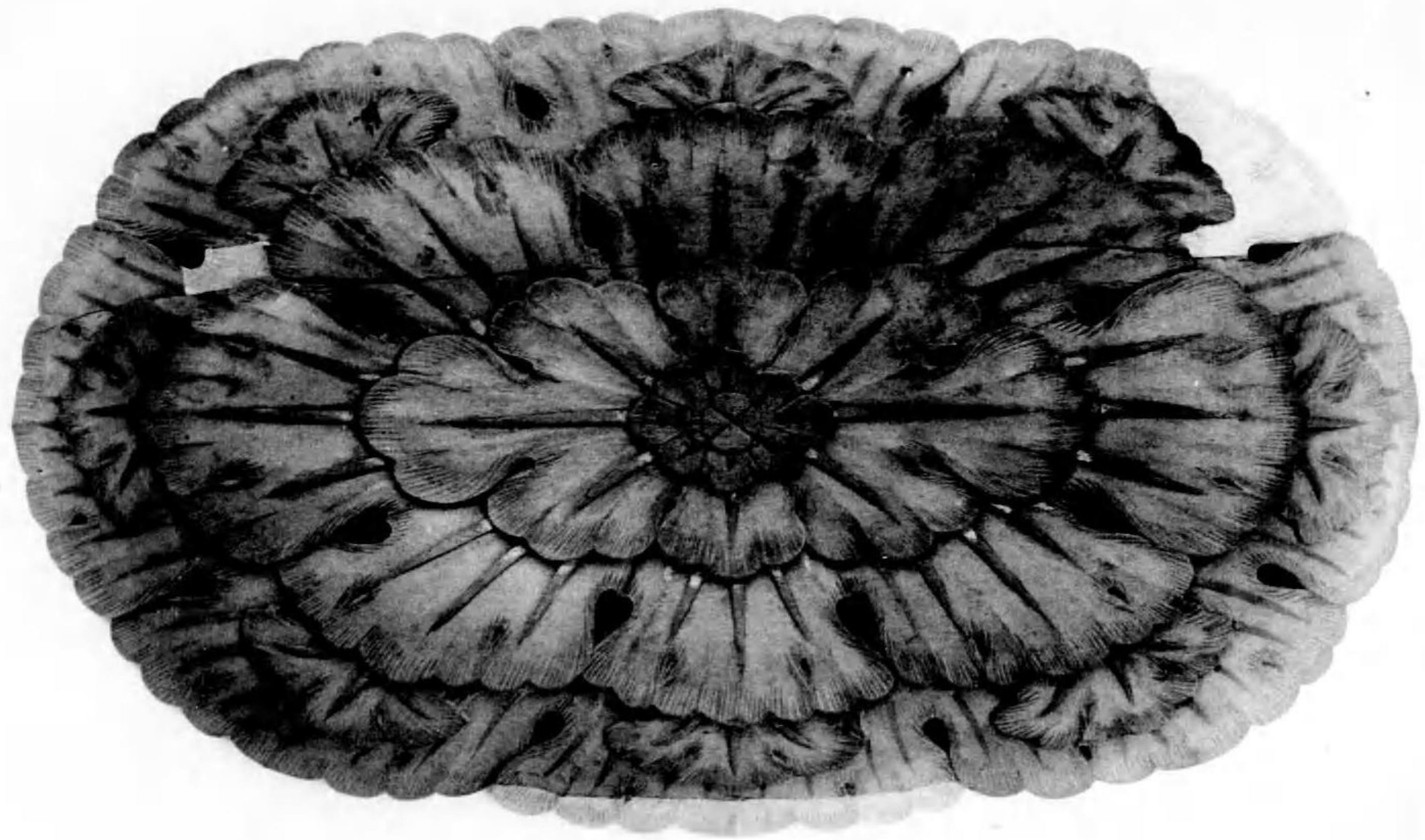


第三十九圖 戒煙標幟(東京市立戒烟會) (七ノ一)

この標幟は、東京市立戒烟會の標幟である。中心には「戒煙」とあり、その周囲には花の模様がある。これは、戒烟會の標幟として用いられたものである。



一ノ分二 圓潤實子全形及其輪額金刺指形類



only - *Andromeda* - *Andromeda*

1811 - 1812 - 1813 - 1814

1815 - 1816 - 1817 - 1818

1819 - 1820 - 1821 - 1822

1823 - 1824 - 1825 - 1826

1827 - 1828 - 1829 - 1830

1831 - 1832 - 1833 - 1834

1835 - 1836 - 1837 - 1838

1839 - 1840 - 1841 - 1842

1843 - 1844 - 1845 - 1846

1847 - 1848 - 1849 - 1850

1851 - 1852 - 1853 - 1854

1855 - 1856 - 1857 - 1858

1859 - 1860 - 1861 - 1862

1863 - 1864 - 1865 - 1866

1867 - 1868 - 1869 - 1870

1871 - 1872 - 1873 - 1874

1875 - 1876 - 1877 - 1878

第三十九圖 刻彫梧桐金銀繪長花形合子

(縮寫四分三)

〔身〕 長徑 三二・五種 短徑 一八・五種 深 一九種 高 八二種
〔蓋〕 長徑 三三・九種 短徑 一四・二種 窪 四八種 高 六〇種
總高 一四二種

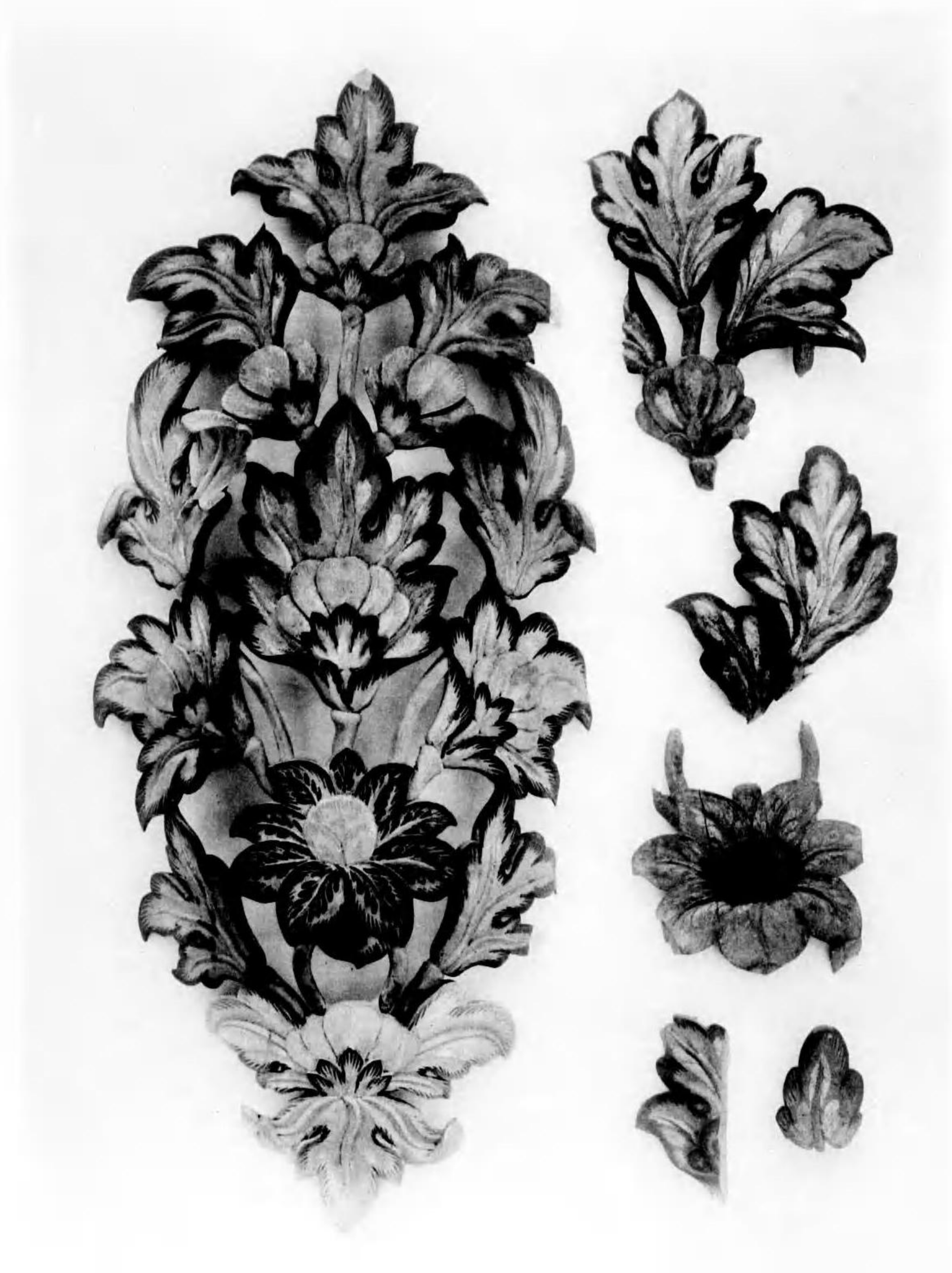
身は梧桐材を上下より刳込み、長花形のあげ底に作り、その側面には白形花座の如き金銀繪の花辨を彫刻し、底に金銅葉狀の六脚をうつ。あげ底に作り、側面に逆辨をあらはすは、前掲合子と異なるが其他は形といひ、技法といひ、全く同工である。

蓋も亦梧桐の一本より彫出せるものであるが、全形を寶相花の花枝に象どり透彫にして、その花卉葉脈等には又金銀泥彩をほどこす。
上圖は合子の全形、下圖は蓋を去つて身だけを寫す。

第四十圖 刻彫梧桐金銀繪長花形合子

(縮寫四分ノ三)

寶相華透彫の蓋のみを示す。向つて左は前掲三十九圖合子附屬のもので、その盛なる形は天平藝術の特徴を遺憾なくあらはしてゐる。右の断片もまた同種のものと思はれ、殊に中央花形裝飾に於いて、前者が銀彩を主とするに對し、これが金彩を主としてゐる事は、もと一雙として作られたものたるを思はしめ、従つて吾々は今一合此の種の長花合子の存在した事をも想像し得られる。



第四十四 植物学雑誌 第三卷 第六号

一、本種の葉は花の基部に生ずる。葉は互生し、卵形、縁は鋸歯状、葉脈は網脈。花は腋生、筒状、五裂。果は蒴果、二室。種子は多数、小形。本種は日本、朝鮮、中国、台湾、インド、マダガスカル、オーストラリア、南アフリカ、南米などに分布する。本種は庭園植物として栽培され、花は觀賞用である。本種はまた、香料植物としても利用される。本種はまた、薬用植物としても利用される。本種はまた、食用植物としても利用される。

第四十一圖 金銅花形合子二合ノ一

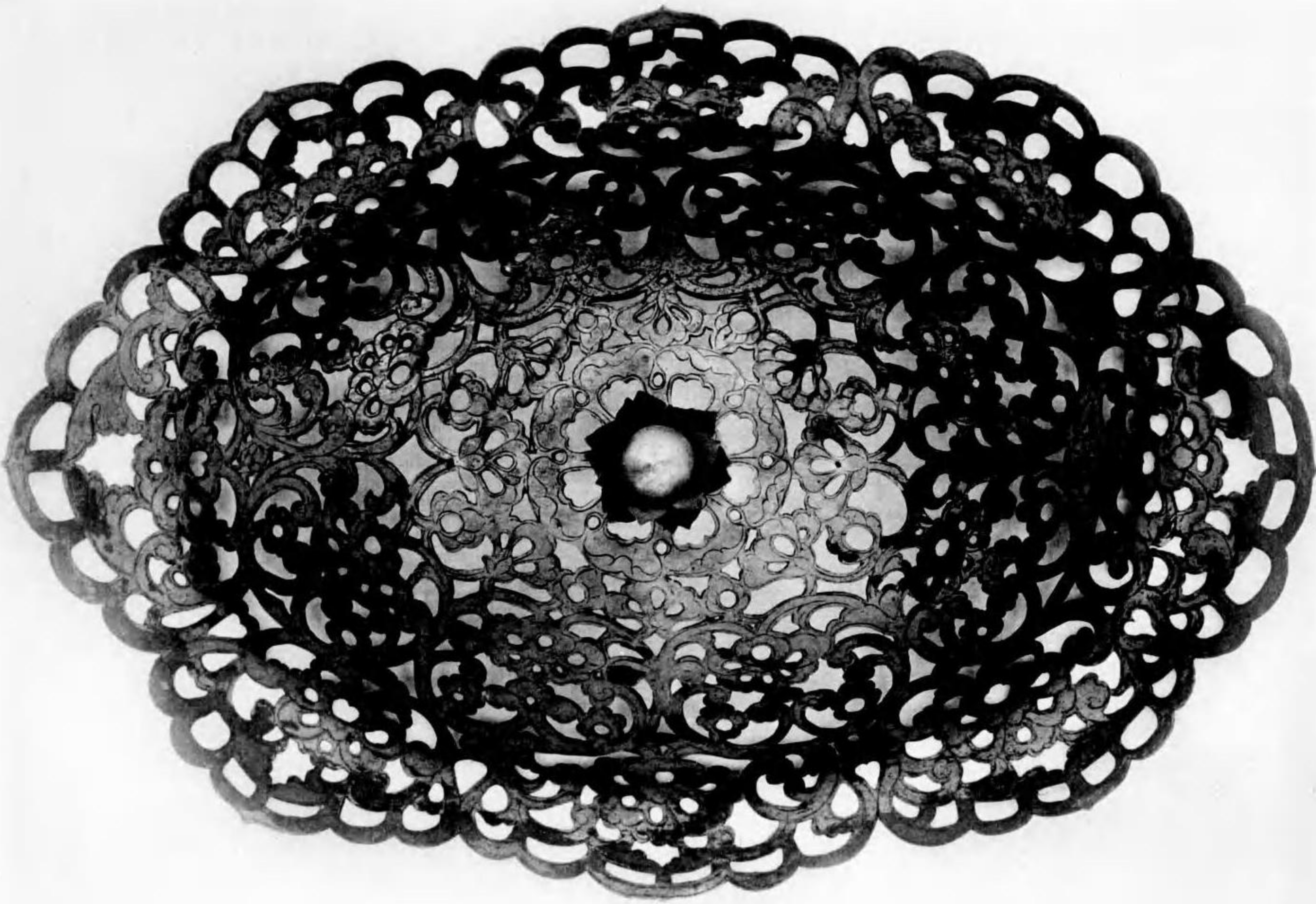
(縮寫三分一)

〔蓋〕 長徑四四〇種 短徑三〇〇種 高八〇種

〔身〕 長徑三六〇種 短徑二四〇種 高九五種

總高 一七〇種

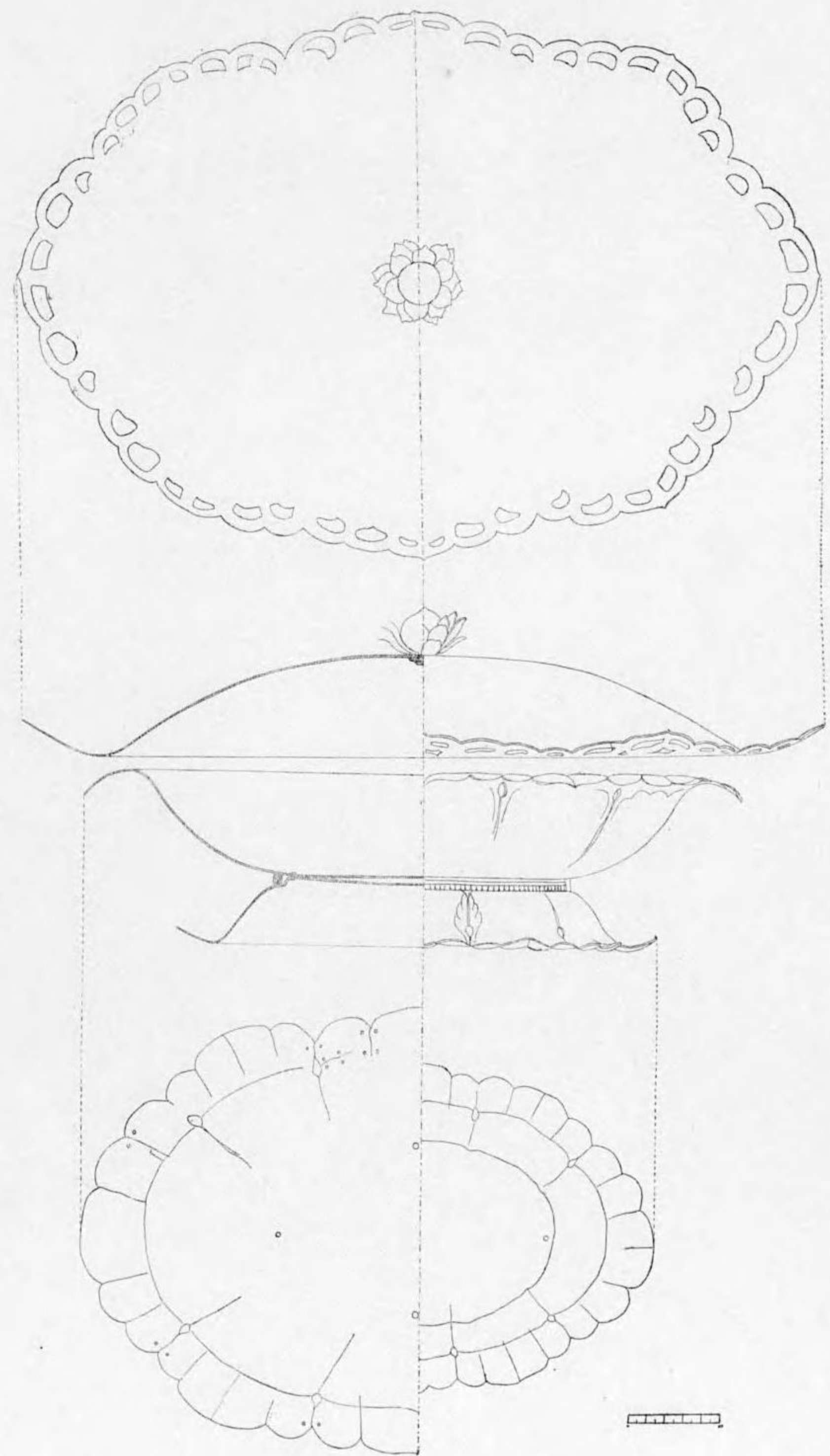
金銅製打物の長花形合子で、蓋には全面にわたる大窠文を透し寶珠鈕をつけ、身には魚々子地に花卉文の毛彫を施す。殊に蓋の透彫りは中央に寶珠鈕を花心とする八葉蓮花文をあらはし、これを繞つて蔓草寶華を圖案し、周縁を長八稜花形に作り、此等一々に線刻を加へた甚だ華麗なものである。圖上は合子の全形、下圖は蓋表を示す。



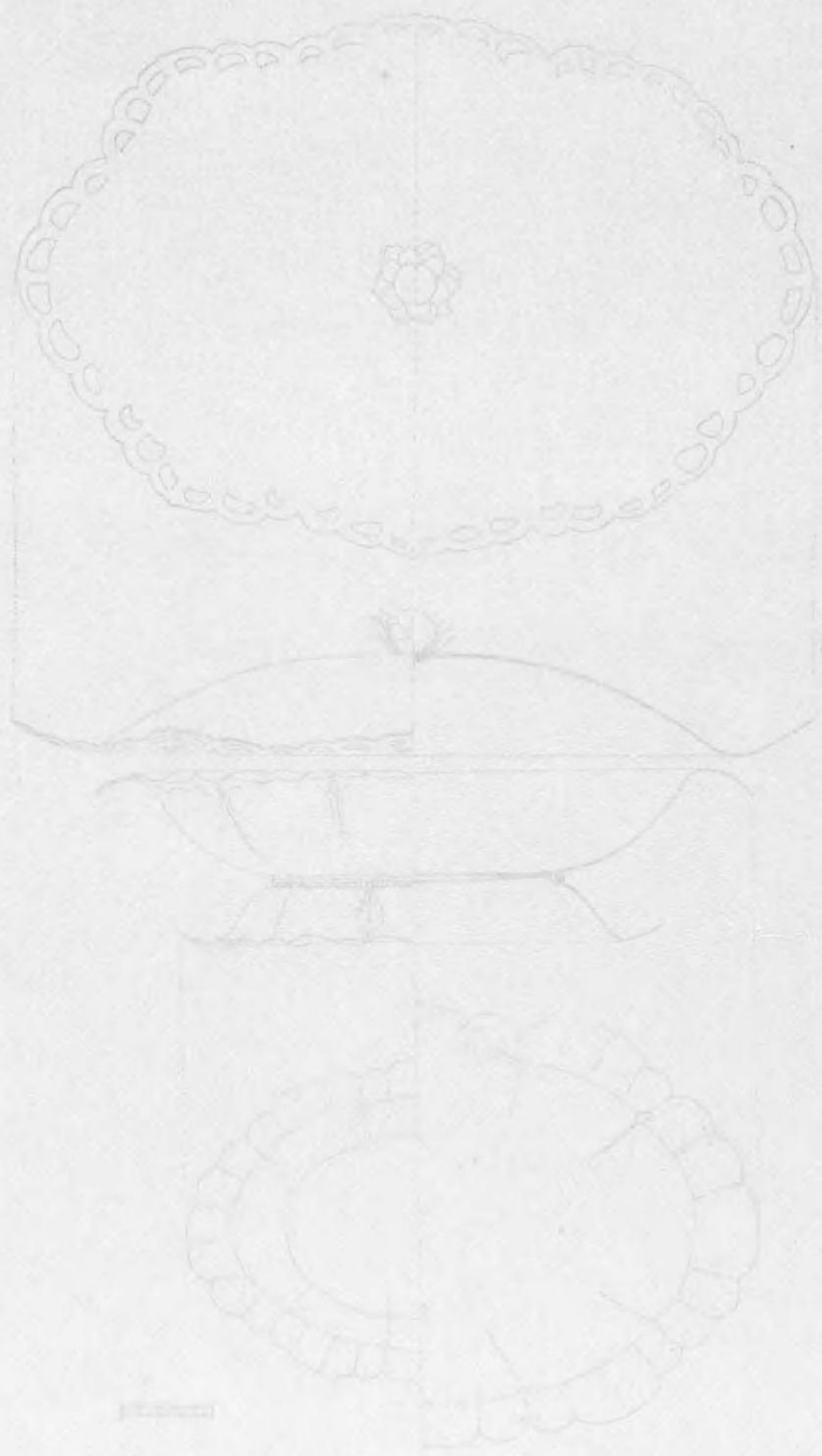
第十四圖 漆器の蓋（二合）

（東京）

蓋の中心に花の形をした突起があり、その周囲に複雑な文様を刻み込んである。蓋の縁は波状の形をしており、全体として非常に精巧な工芸品である。蓋の裏面には、同様の文様が透かし彫りで施されている。蓋の直径は約15センチメートル、高さは約5センチメートルである。



一分三 圖測實一ノ合二子合形花銅金



第四十二圖 金銅長花形合子二合ノ一

(縮寫三分ノ一)

前掲合子の蓋を去つて身のみを示す。上圖はその全形、下圖は底裏を撮す。腰に飾紐をめぐらして、佛の白形蓮座の如き形をなすが、その製作は槌起する大小二枚の長八稜花形盤を上下に合せ、四鋸で留めて作り、且つその瓣と瓣との間には猪目を透し、側面と内面上部とは魚々子地に草花文様の線刻を施し、底裏には緑青をぬる。

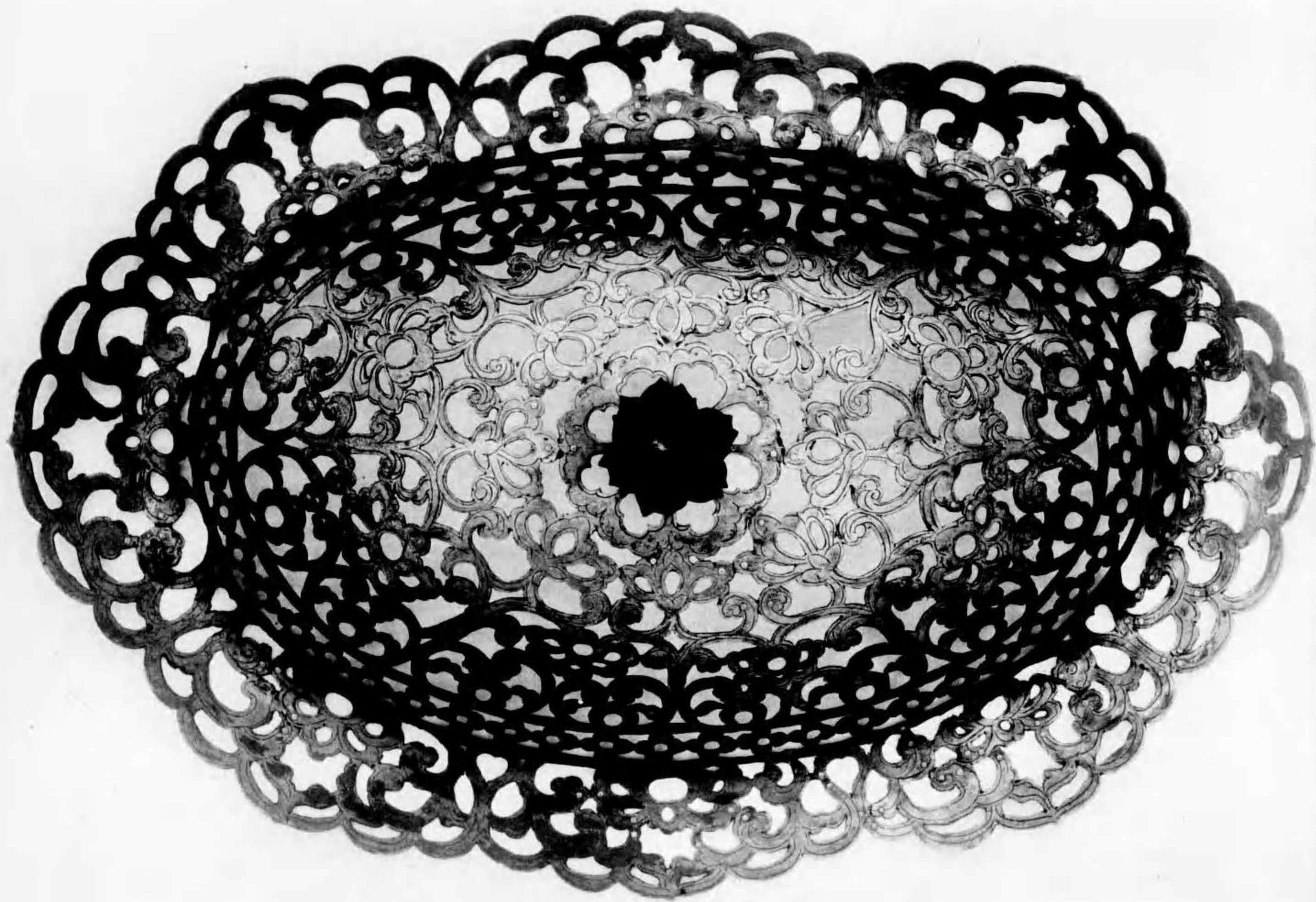
第四十三圖 金銅長花形合子二合ノ二

(縮寫二分ノ二)

〔蓋〕 長徑 四六〇 短徑 三二五 高 八〇 厚 〇・二

形と云ひ大きさと云ひ、前掲のものと同く双をなすものと思はれる。併し蓋の透彫に於て、その縁端に近く小花文帯をめぐらし、又中央八葉蓮花文並にそれをめぐる蔓草花文にも變化を作り、大同の中に小異あらしめてゐるは注目に値する。

上圖は側面、下圖は蓋表を示すが、身は近代の後補である。



第四十三圖 金銅製洗鉢（合）二

一、洗鉢の蓋、二、洗鉢の鉢

此の洗鉢は、十世紀の遺物と見られ、その蓋は、
 金銅製で、蓋の表面は、透孔の文様が施され、
 中央には、蓮の花の文様が彫刻されている。
 鉢の表面には、蓮の花の文様が彫刻されている。
 蓋の縁には、蓮の花の文様が彫刻されている。
 鉢の縁には、蓮の花の文様が彫刻されている。

第四十四圖 金銅八曲長坏三口ノ内

(縮寫十分九)

長徑 一九八糎 短徑 九六糎 深 三六糎
高 五〇糎

鑄製で、底裏に至るまで全部鍍金を施す。器形甚だ特殊にして、長八曲の輪廓に従ひ、坏内面に五列の窪溝を作り、底に又八曲の香臺を附す。圖録七輯第五圖所載の綠瑠璃十二曲長坏の形稍之に似るが、彼の丸底であると異り、之には香臺がある。然し共に起源を西域に求むべきものと稱せられ、遠くポトランド地方からも同種のものを出土してゐると云ふ。

上圖はその上側面、中圖は内面、下圖は背面を示すが、就中背面香臺の廻りには鑿による補正も見られる。尙寶庫中には之と同種同形のもの外に二口ある。

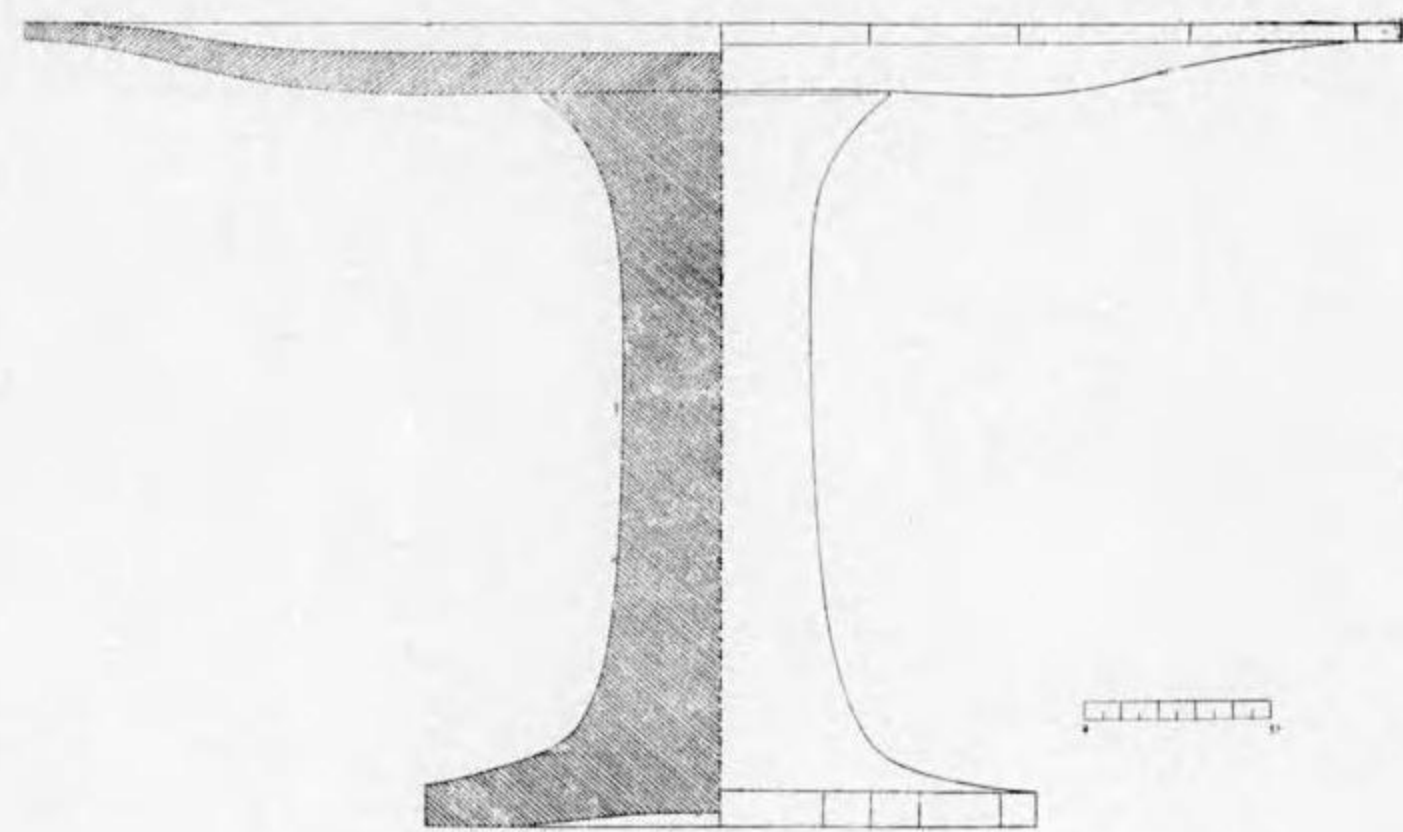
第四十五圖 朴木彩繪高坏

(繪寫三分一)

長徑 三九八種 高二三五種

窪 一六種

材は朴木、轆轤挽き製であるが、坏と臺とは別々に挽き、之を接合して作る。坏はその輪廓六稜花形をなし、中央僅かに窪み、臺は圓柱狀をなし基底に於いて六稜花形に開く。器の全體に蘇芳を塗り、坏表には複合窠文、同裏には花枝文、臺には飛雲蝶・鳥花卉文等を胡粉又黄土にて描く。下圖は坏の側面、上圖はその内面を示す。上圖の下端は後補の箇所である。



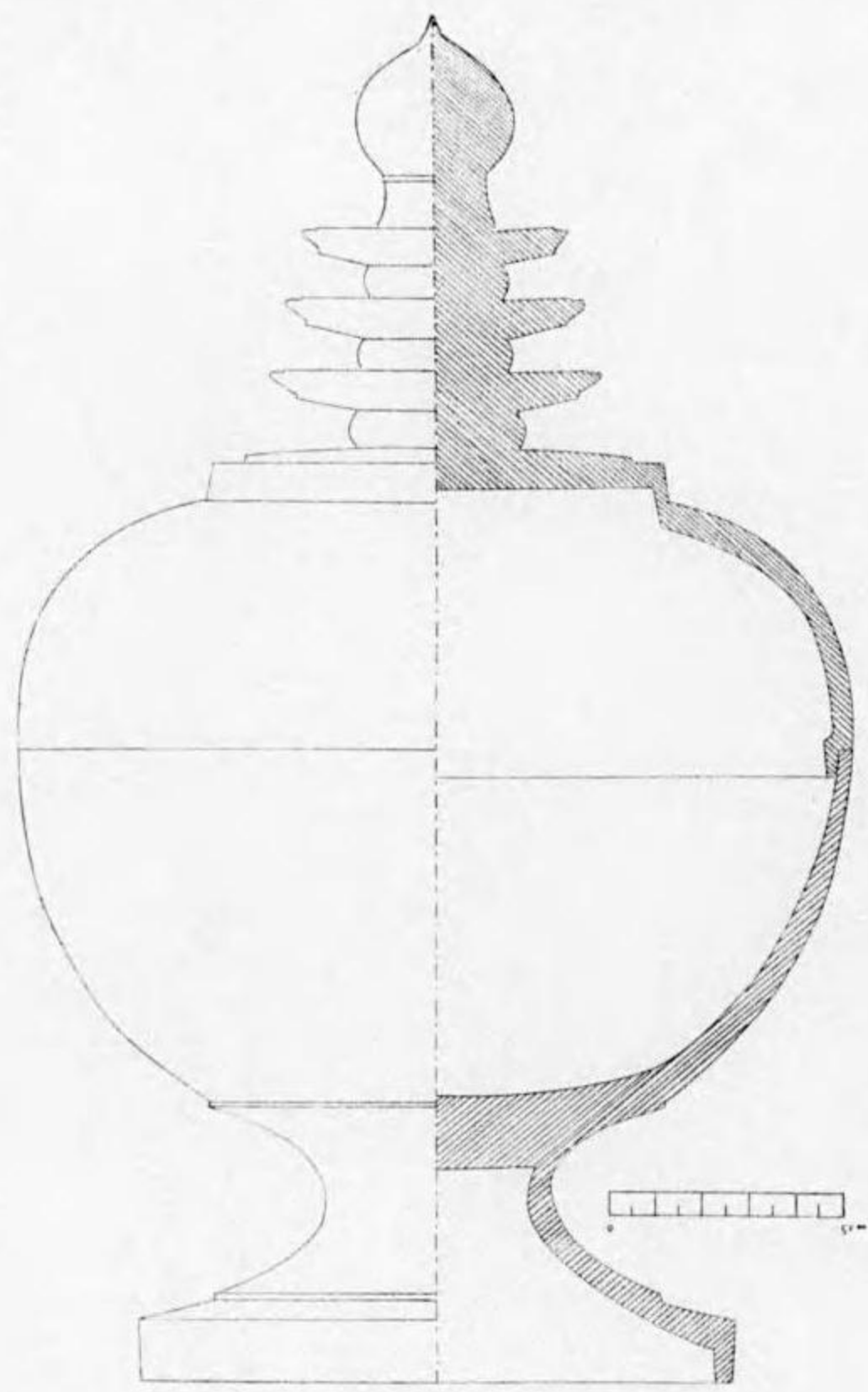
一分三 圖測實坏高繪彩木朴

第四十六圖 金銅大合子四合ノ一

(縮寫十分ノ九)

總高 二九〇糎 胴徑 一七五糎 重 五〇二五克

銅鑄製、轆轤挽きして形をととのへ鍍金を施したもので、鞠形の中邊より切半され、蓋と身の二部になる。蓋には三重の相輪鈕をたて、身には柱脚を作る。蓋は相輪鈕と一つマきの鑄製、身は柱脚と一連にして、内面、底面共に鍍金を施し、且つその各々に「左十五」の刻銘がある。尙殘る三合も全く同形である。



一ノ分三 圖測實子合大銅金



第四十六圖 金剛大合子四合一

此の器は、古くは、法華經の「法華經疏」に「金剛大合子」として記述され、
 密教の儀式に用いられる。其の形は、金剛の形に似て、上は尖り、下は平らな
 形をしてゐる。其の口は、二重の縁を有し、その内側は、金剛の形をしてゐる。
 此の器は、密教の儀式に用いられる。其の形は、金剛の形に似て、上は尖り、
 下は平らな形をしてゐる。其の口は、二重の縁を有し、その内側は、金剛の形
 をしてゐる。



第四十七圖 金銅大合子四合ノ一

(縮百分之九)

前掲合子の身とその底裏とを示す。

御物中には尙同種同形のもの三基許りあり、

その寸法・重量・刻文は左の如くである。

	全高	徑	重	刻文
二號	二八〇	一八二	五八四〇瓦	無シ
三號	二九〇	一七七	四六四〇瓦	底裏左四 蓋裏左十四
四號	二九〇	一七八	五一八〇瓦	底裏左二 蓋後補



第四十圖 金剛大合子四合

一、二式の器 一、十八寸 五、一八〇分 三、二式の器
 二、二式の器 一、十八寸 四、六〇分 五、二式の器 一、十八寸
 二、二八〇分 一、八二寸 五、八四〇分 六、二
 各 器 一、二 式 文
 三、の寸法、重量、説文、式、の寸法、の寸法、
 四、の寸法、重量、説文、式、の寸法、の寸法、
 五、の寸法、重量、説文、式、の寸法、の寸法、